

2021 年度
被ばく医療研修認定委員会
活動報告

2022 年 3 月

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
放射線医学研究所

目次

1.	はじめに	1
2.	被ばく医療研修認定委員会の概要	2
2.1.	設置の経緯	2
2.2.	委員会の目的	2
2.3.	被ばく医療研修認定委員会の委員リスト	4
3.	被ばく医療研修認定委員会開催実績	5
3.1.	令和3年度認定委員会での議論の概要	5
3.2.	認定委員会議事概要	5
3.2.1.	R3年度第1回被ばく医療研修認定委員会議事概要	5
3.2.2.	令和3年度第2回被ばく医療研修認定委員会 議事概要	9
3.2.3.	令和3年度第3回被ばく医療研修認定委員会 議事概要	15
3.2.4.	令和3年度第4回被ばく医療研修認定委員会 議事概要	18
3.2.5.	令和3年度第5回被ばく医療研修認定委員会 議事概要	22
4.	研修制度	26
4.1.	研修体系の変更	26
4.2.	認定基準の作成の経緯	26
4.2.1.	各研修の評価項目と結果	27
4.3.	分割開催	33
4.4.	専門研修の研修認定基準	34
4.5.	高度専門研修の研修認定基準	34
4.6.	受講資格	35
4.7.	修了認定基準	35
4.8.	講師資格と更新	35
4.9.	標準テキストの承認	36
4.10.	過去歴の取り扱い	37
5.	研修認定の実績	39
5.1.	研修認定の手順	39
5.2.	令和3年度の研修の認定実績	39
6.	各研修の目的、対象者等	41
6.1.	目的、目標、対象者	41
6.2.	講義、机上演習、実習	44
6.3.	責任者、講師、修了の基準	48
7.	研修制度の課題	50
7.1.	R5年度有効期限切れとなる受講者への対応	50

7.2.	基礎研修の e-Learning 化、オンデマンド研修の検討	52
7.3.	フォローアップ（技能維持）研修の検討	52
7.4.	甲状腺簡易測定研修；マニュアルに適応した内容に変更	53
7.5.	医療関係者以外の研修受講の門戸を拡張する可能性	53
7.6.	実習・机上演習の指導要領の作成	54
7.7.	その他	54
8.	運用取決め等	55
8.1.	設置規程	55
8.2.	令和 4 年 1 月 1 日施行	57
8.3.	令和 4 年 4 月 1 日施行	67
9.	過去研修リスト	81
9.1.	原子力災害医療基礎研修	81
9.2.	専門研修	100

1. はじめに

原子力災害時の医療に関する研修の体系化、標準化を目的に、平成 31 年度（2019 年度）に量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門放射線医学研究所（以下、「量研機構放医研」）に「被ばく医療研修認定委員会」（以下、「認定委員会」）が設置された。平成 31 年度（2019 年度）から令和 2 年度（2020 年度）の委員会活動については、すでに報告した通りであり、令和 3 年度（2021 年度）は、「被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め」（以下、「運用取決め」）および「被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め(細則）」（以下、「運用細則」）にのっとり、各研修の認定等を行った。しかし、令和 2 年度までに決定した研修体系で実施される研修の中にも、認定基準が定まっていない研修が複数あり、令和 3 年度は、研修認定作業と同時に、いくつかの研修については、認定基準や標準テキスト等を決定することが並行して実施された。また、研修制度の運用を開始した後に、制度の修正が必要となったり、課題が見出されたりしたことから、認定委員会で議論し、運用取決め、運用細則の改訂を適宜実施した。

本報告書は令和 3 年度（2021 年度）の認定委員会での検討内容、決定事項、認定作業を報告するものである。

2. 被ばく医療研修認定委員会の概要

2.1. 設置の経緯

国、高度被ばく医療支援センター、原子力災害医療・総合支援センター、地方公共団体等が行なっている研修について、研修内容の重複、対象者のミスマッチ等が生じており、研修を整理・体系化し、効率的・効果的な人材育成を行うことが必要であることが、平成 30 年（2018 年）に原子力規制庁により示された¹。原子力災害時の医療に関する研修について、研修内容の標準化、体系化、効率化、人材育成の高度化、原子力災害時の医療に携わる人材の一元管理を検討し、標準テキスト、研修の体系化を作成するために、放射線対策委託費（放射線安全規制研究戦略的推進事業費）放射線安全規制研究推進事業として、「包括的被ばく医療の体制構築に関する調査研究」が平成 30 年（2018 年）より 3 年間実施された。この研究事業により提案された標準テキスト、研修の体系化、効率化、人材育成の高度化をベースとした新たな研修制度を運用し、基幹高度被ばく医療センター、高度被ばく医療支援センター、原子力災害医療・総合支援センター、地方公共団体等が実施する原子力災害医療の研修について、質を担保する目的で、令和元年（2019 年）に「被ばく医療研修認定委員会」が量研機構放医研に設置された。本委員会は、研修を開催・実施する、基幹高度被ばく医療支援センター、高度被ばく医療支援センター、原子力災害医療・総合支援センターの運営とは独立に、第三者の立場で研修やテキスト等を認定することを目的としている。

令和 3 年度（2021 年度）については、原子力規制庁の指導に基づき、1) 設置から令和 3 年 3 月までに定められた運用取決めと細則にのっとり、各研修の認定を行うこと、2) 同時に、令和 3 年 3 月までに認定基準が定まっていない研修について、認定基準や標準テキストを定めること、が認定委員会のミッションであった。

2.2. 委員会の目的

原子力規制庁の原子力施設等防災対策委託費、原子力災害等医療実効性確保事業により実施する原子力災害医療に関する研修の制度に資するため、量研機構放医研に設置された認定委員会の所掌業務は以下のとおりである。

¹ 原子力規制庁；平成 30 年度第 3 回原子力規制委員会 資料 1 「原子力災害拠点病院等の施設要件」の見直しの方向性について、平成 30 年 4 月 18 日

- (1) 研修及び研修コース認定の基準を定めること
- (2) 受講者の研修修了認定の基準を定めること
- (3) 研修を行う講師の資格を定めること
- (4) 研修主催者から申請される研修を認定すること
- (5) 受講者の研修修了を認定すること
- (6) 標準テキストを承認すること
- (7) その他委員長が必要と認める事項

これらの所掌業務を実施するにあたり、運用取決めおよび運用細則が認定委員会で定められている。(9.運用規定参照)

これにより、原子力災害医療研修は、研修そのものの質や修了認定が担保されることで、主催する機関や開催施設によるばらつきがなく、全国各地で統一的な研修を提供することが可能となる。また、「原子力災害拠点病院等の施設要件」（原子力規制庁 平成 30 年 7 月 25 日全部改正）において示されている各施設の医療体制、教育研修を、認定委員会が所掌する研修制度により補完するものである。

認定委員会が設置される時点で、研修コース認定の基準、研修修了認定の基準、講師資格、標準テキストの承認等を所掌とする委員会等が明確でなかったため、研修の認定を進めるために認定委員会の所掌業務として推進した。

しかし、令和 3 年度には、認定基準や講師資格、標準テキストを定める委員会と研修の認定を行う委員会が同一であることについて、高度被ばく医療支援センター連携会議等から異議が呈されることとなった。このため、原子力規制庁と量研機構放医研の協議により、令和 4 年度以降は、研修コース認定の基準、研修修了認定の基準、講師資格、標準テキストの承認については、高度被ばく医療支援センター連携会議が設置する研修部会に移管することとなった。

2.3. 被ばく医療研修認定委員会の委員リスト

令和4年3月末時点

	委員氏名	所属
委員長	安田 仲宏	福井大学 附属国際原子力工学研究所 原子力防災・危機管理部門 教授
委員長代理	富永 隆子	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 放射線医学研究所 放射線緊急事態対応部 被ばく医療グループリーダー
委員	井瀧 千恵子	弘前大学大学院保健学研究科・教授
	石川 徹夫	福島県立医科大学 医学部放射線物理化学講座 教授
	宇佐 俊郎	長崎大学病院 国際ヒバクシャ医療センター 准教授
	数藤 由美子	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門 高度被ばく医療センター 計測・線量評価部 グループリーダー
	武田 聡司	国立病院機構東埼玉病院 放射線科 診療放射線技師長
	土岐 邦彰	公益財団法人原子力安全技術センター 原子力安全部 特任参事
	廣橋 伸之	広島大学 原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター 放射線災害医療開発研究分野 教授
	山本 尚幸	公益財団法人原子力安全研究協会 放射線災害医療研究所 所長
	吉村 崇	大阪大学放射線科学基盤機構附属ラジオアイソトープ 総合センター・教授

3. 被ばく医療研修認定委員会開催実績

3.1. 令和3年度認定委員会での議論の概要

令和3年度（2021年度）に開催した認定委員会の実績を示す。本年度に認定委員会で定めた項目及び運用取決め、運用細則を改定した項目は以下のとおりである。また、染色体分析研修については、高度専門染色体分析研修と染色体分析研修の二つに分け、研修体系を変更した。

【定めた項目】

- (1) 研修の分割開催
- (2) 認定基準；ホールボディカウンター研修、甲状腺簡易測定研修、染色体分析研修、高度専門被ばく医療研修、講師養成研修、体外計測研修、バイオアッセイ研修、高度専門染色体分析研修
- (3) 標準テキストの承認；ホールボディ研修、甲状腺簡易測定研修、染色体分析研修、高度専門被ばく医療研修、講師養成研修、体外計測研修、バイオアッセイ研修、高度専門染色体分析研修
- (4) 受講資格
- (5) 修了認定基準
- (6) 講師資格と更新条件

研修の認定基準、標準テキストを定めるにあたっては、今年度、量研機構放医研で開催された以下の研修にオブザーバー参加あるいは録画ビデオの視聴により研修のプログラム、講義内容、講義時間、テキストについて評価し、認定基準作成の参考とした。テキストについては、評価でのコメントを基に使用されたテキストを修正し、標準テキストとした。

3.2. 認定委員会議事概要

3.2.1. R3年度第1回被ばく医療研修認定委員会議事概要

1. 日時：令和3年6月14日(月) 14：00～15：40
2. 場所：Webex Meeting によるウェブ会議
3. 出席者：
安田委員長、富永委員長代理、井瀧委員、宇佐委員、石川委員、吉村委員、武田委員、杉浦委員、土岐委員、数藤委員
オブザーバー：（量研）立崎、熊谷、渡部、三嶋
事務局：府馬、櫻庭、藤田、相良

4. 議題

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 活動報告について
- (3) 認定基準について
- (4) 申請等の様式について
- (5) 報告事項（事務局より）
 - 1) メール審議報告
 - 2) 原子力規制庁への提案
 - 3) Web ページ
 - 4) 過去研修リスト更新
 - 5) 自治体の研修実施状況
- (6) その他

5. 議事概要

委員会の冒頭、委員長より昨年度の積み残しの確認や今年度の予定等について、原子力規制庁と 6/9 に打合せたので、その議事を踏まえて本日議論したい旨、説明があった。基礎研修について原子力規制庁は自治体がしっかり責任をもって進めて欲しいと考えている。支援センターや大学が基礎研修を実施することには反対はしないが、その際に必要となる費用について、受講者の手弁当であれば問題はないが、抛出する場合はその所管について注意が必要。また、今年度は甲状腺簡易測定研修や WBC 研修、高度専門研修の認定基準等を検討して決定するにあたっての方向性については、甲状腺簡易測定研修を 5 支援センターで実施し、年度末に振り返りの場を設けること、WBC 研修や体外計測研修も量研機構放医研以外で実施する可能性などが示された。施設要件について見直し案を提示した際に、変更情報は提示するので、その取扱いについては原子力規制庁で差配してもらうようお願いしたことなどが説明された。

- (1) 前回議事概要案の確認について
前回の議事概要は確認済みである。
- (2) 活動報告について

今年度の研修の実施状況を PPT により事務局から説明。

実習や机上演習の質をチェックしたり、標準テキストに加えて追加テキストを使っている場合にどのように講義を行っているか把握するために、認定委員がオブザーバー参加したり、オンライン配信することを検討願いたいとの意見。

(3) (4) 基準・申請等の様式について

専門研修と高度専門研修についての進捗を PPT にて事務局から説明。具体的な開催計画については以下の通りで、昨年度量研機構放医研で実施した内容を運用取決めと細則に反映し、申請書の様式も中核人材研修と同様に決定する方針としている。

染色体基礎研修[WEB 開催] (8 月 10 日)

甲状腺簡易測定研修 (8 月 11 日)

WBC 研修 (8 月 12 日～13 日)

これらの研修については、パイロット的に実施したらどうか。認定委員会で事前審査はするが、試行的に研修を実施し、その中で内容を把握した上で認定することにする。修了証書は出すことにする。

・受講したのに認定されないという事態だけは避けたい。改めるべき点は、次回から改めるという形ならばよい。

※長崎大学も 8 月に甲状腺簡易測定研修を予定しているとの紹介があり、システムにて申請いただき、委員会に諮ること（パイロット的な取組としての位置づけであることは共有）。現システムで問題ないかの確認があった。

資料 R3-1-3-1「被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（修正版）」に基づき事務局から説明。

資料 R3-1-3-2「被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（細則）修正版」に基づき事務局から追記修正条項及び追加様式について説明。委員各位からのご意見は資料を十分に確認いただき、後日メールにて連絡いただくこととした。

追加テキストの情報がテキスト作業部会に展開されて、次に向けて検討、反映されるようにしておくことが必要との意見。

甲状腺簡易測定研修について、原子力規制庁から、受講対象者は自治体、拠点病院、協力機関連携病院であり、自治体を通してこれらの機関に研修の案内が回るようにしてほしいとの指導があった。

(5) 報告事項（スライドに基づき事務局から説明）

1) メール審議報告

2 か月余りで 12 件審議された。

2) 原子力規制庁への提案

原子力規制庁と相談して気づきの点を伝える形。

3) Web ページ

テストページに基づき、委員各位に確認いただいた。ページ開設の承認が取れ次第、アップする。アップ次第、委員各位にアナウンスのこと。

4) 過去研修リスト更新

3月末に1件、5月に1件追加された。委員から修正の依頼も来ている。

5) 自治体の研修実施状況

24道府県への説明会が6月末までに完了予定。基礎研修は2件審査済で今後続けて申請予定。

実施状況については事務局からすべての自治体に連絡が取れて、6月中には説明を終える予定であることが報告された。

6) その他

メール審議にかわって研修管理システムで認定審査に対応できるように検討して欲しい。システム改修を事務局で要望願いたいとの意見。

弘前大学からの申請資料については、追加テキストの量が多く、全部を使うのか一部を使うのか判別できないので改善を要望する。標準テキストとの重複も懸念されるところがあるとの意見。

事務局より委員の皆様の負担を軽減できるよう、今後のメール審議においてはファイルをまとめる等、改善検討し配慮していくと回答。

(6) その他

立崎被ばく医療部長から、4/16付の原子力規制庁説明資料（体制図）に基づき、標準テキストについては、高度被ばく医療支援センター連携会議の下位にある医療部会に、「テキスト作業部会」を設置してテキストの充実を図っていくよう対応しているとの説明があった。委員長より委員の意見を反映するよう検討のこと、上記体制図でそれぞれのポリシーが分かるようにしてほしいとの発言があった。

以上

【令和3年度第1回認定委員会 配布資料】

資料 R3-1-1：令和2年度被ばく医療研修認定委員会第4回会議議事概要（案）

資料 R3-1-2：被ばく医療研修認定委員会活動報告案

資料 R3-1-3-1：被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（修正版）

資料 R3-1-3-2：

被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（細則）（修正版）

資料 R3-1-3-3：染色体実践研修新設について

資料 R3-1-4：新規研修様式案

資料 R3-1-5：量研からの申請書（WBC 研修）

資料 R3-1-5：量研からの申請書（甲状腺簡易測定研修）

資料 R3-1-5：量研からの申請書（染色体基礎研修）

3.2.2. 令和 3 年度第 2 回被ばく医療研修認定委員会 議事概要

1. 日時 令和 3 年 10 月 25 日（月）14：00～16：10
2. 場所 Webex Meeting
3. 出席者；
安田委員長、富永委員長代理、石川委員、井瀧委員、宇佐委員、數藤委員、武田委員、土岐委員、廣橋委員、山本委員、吉村委員
オブザーバー：（量研）立崎、熊谷、栗原、三嶋、深堀
事務局：相良、渡部、米山、櫻庭、藤田、府馬
4. 議題
 - (1) 前回議事録の確認
 - (2) 委員交代の報告
 - (3) 運用取決めの修正
 - (4) 染色体分析研修の方針
 - (5) 線量評価に関する研修の実施報告
 - (6) 過去研修の追加
 - (7) 今後の予定：これまでの認定状況と今後の研修開催予定
5. 議事概要
 - (1) 前回議事録の確認
前回議事録 R3-2-1 について確認が行われ、了承された。
 - (2) 委員交代の報告
杉浦委員より交替の申し入れがあり了承するとともに、山本委員が新委員として承認された。名簿は 50 音順に見直す。また、委員の名前の誤字も修正する。
 - (3) 運用取り決めの修正
 - ①委員長代理より R3-2-3～5 の「分割開催への対応」について、説明用資料 R3-2-7 を用いて説明があった。コロナなど主催者側の都合で中断する場合と受講者の都合で中断する場合が考えられる。いつ、どの講義から中断したかを記した、途中までであるという内容の受講証明書を主催者が発行。途中まで受講した人は、別の研修に参加できるようにする。その際、受講履歴は開催者が確認する。中断する期間

については、翌年度までに研修を再開し、修了するようにする。令和4年度までの開催分までの措置で、令和5年度末までに修了するようにする。その後、質疑。

(委員) これまで実際に研修を中断した例はない。中断した研修の再開は、翌年度末まででよいと考える。中断の理由は、コロナだけでない方がありがたい。

(委員) 「概ね翌年度末」にしたらどうか。

(委員) 「概ね」は不要ではないか。

(委員) 例えば、3/31に研修を再開して、数日かかって研修終了となった場合は年度をまたぐことになるので、入れたほうがよいのでは。

(委員) 基礎研修の場合は分割受講になる場合があった。主催者が中断した理由を厳密に精査すべき。

(委員) 最初から分割受講するつもりで参加する人はどうするか

(委員) 前回の研修を中止にしたが、受講予定者には次回の案内を出した。

(委員) 研修を再開できない場合は、他の研修を案内すべき。

(委員) 取りこぼしの人を満了できるように、研修を主催するセンター間で連携を図る必要がある。センター向けの分割開催のマニュアルを作成し、事務局でも、空きのある研修を案内するなど対応が必要。

(委員) 受講証明書を発行するのは、研修管理者（システム入力者）か？

(委員) 研修責任者

➤ 結論としては、中断期間は、「開催日から概ね翌年度末までに再開し、研修終了すること」とする。

②委員長代理より R3-2-3～5の「受講資格の整理」について、説明用資料 R3-2-7を用いて説明があった。基礎研修修了後に中核人材研修を受講。3年以内にもう一度受講し、資格を継続させる。

(委員) 基礎研修から積み上げる体系になっているので受講者が少ない。受講を容易にするため、基礎研修をオンデマンド化する。フォローアップ研修も加える。

(委員) 特に看護師は、基礎研修の振り返りが必要。オンデマンドで知識を再確認できるとよい。

- (委員) 同じ研修を受けるより振り返りができるようにした方がよい。
看護師だけでなく技師も、一回の研修では忘れる。
- (委員) 過去の派遣チーム研修を受講した人が、新体系の派遣チーム研修を受講できるのは適当でないと考える。体系化という意味では、基礎研修から積み上げていく方がよいのでは。
- (委員) 同意見。
- (委員) 認定委員会のポリシーとしては、基礎研修から積み上げる形にしたい。
- (オブザーバー) 令和 3 年度以降、中核を受けている人の修了証は 3 年で失効するが、その場合、基礎研修からやり直しか？
- (委員) そういうことになる。
- (オブザーバー) 量研は派遣チームを持っていない。
高度被ばく専門研修の講師をやっていた人は研修生にカウントされないが、カウントして欲しい
- (委員) 講師資格のある人は、高度専門研修の受講資格があるとする。
取り決め 11 条に書き込む。
- (委員) ここで決めたことは、認定委員会のポリシーとして、できるだけ基礎研修から立ち上げるということ。そのためには、基礎研修をオンデマンド化し、習熟度を確認できるうまい立て付けを考え、基礎研修を迅速にやる必要がある。
- R2 年度までの修了者の対応について、新研修体系の図に盛り込む。
 - 中核人材研修の有効期間を過ぎてしまったら、基礎研修から受講してもらうことになる。
 - 過去研修の再受講は認めないこととする（例：過去の派遣チーム研修を受講した人でも、新体系の派遣チーム研修を受講するためには基礎研修と中核人材研修の受講が必要になる）。

③委員長代理より R3-2-6 の「各研修の講師資格」について、説明用資料 R3-2-7 を用いて説明があった。

- (委員) 研修は受けたが講師をやっていない人の講師資格はどうするか？
- (委員) うちの組織の人間が中核人材研修を受講することは可能か？
- (委員) 基礎研修を受ければ中核を受けられる。主催者判断
- (委員) 拠点病院、協力機関で災害コーディネーターの人が応募したが、受講を OK した。

- (委員) 拠点病院、協力機関の人には旅費が出せる。それ以外（要件に入っていない人）は原子力規制庁の予算から旅費が出せない
- (委員) 拠点病院と協力機関以外の人の受講希望は弘前大学では来ていない。
- (委員) 認定委員会としては OK。主催者が原子力規制庁に聞いて OK ならば大丈夫。
- (委員) 各センターの裁量で決める
- (委員) 枠が空いていれば OK、オブザーバーなら OK
- (委員) 原安協は研修を実施するので講師を確保する必要があるのでは。
- (委員) 私自身中核の講師の期限が切れる、どこかで受け入れてくれないと困る
- (委員) 24 道府県以外だと講師の更新の連絡も来ないし、研修の案内も来ないので、難しい。
- (委員) 認定委員会としては原子力災害医療に関わるものとしか記していないので、24 道府県以外を除外しているわけではない、
- (事務局) 研修管理システムの HP はどこからでも見られるので、研修に参加したい人は参考になると考えられる。
- (委員) 過去に何らかの受講をした人に研修のお知らせをする。研修管理システムへのアクセスを容易にすべき。
- ▶ 案の通り了承。
 - ▶ 中核人材研修以上の研修は対象者が協力機関や協定病院向けになっているが、それ以外からの受講要望については各支援センターマスターとなる。
 - ▶ 高度専門研修の講師資格者は高度専門研修の受講者になれるように申し入れがあり、細則第 11 条を高度専門研修全般に渡って受講資格の記述を見直すこと。

④委員長代理より R3-2-6 の「講師履歴のカウント方法」について、説明用資料 R3-2-7 を用いて説明があった。講師履歴のカウント方法は、研修 1 回の参加で 1 カウント。同じ研修で複数の実習、講義を行っても 1 回とカウントする。オンライン研修など、同一日程の開催だったら名称は別の研修でも 1 回とカウントする。

- ▶ 案の通り了承。

(4) 染色体分析研修の方針

オブザーバーより R3-2-8~10 に基づき、染色体研修の新制度構想について説明があった。

(オブザーバー) これまでの研修より深く高度な染色体研修を作る。先に染色体画像資料を渡して講座で答え合わせをするなど。染色体分析研修修了後に高度専門染色体分析研修受講とする。

(委員) 研修の対象者と目的が明確になった。

(委員) 他分野の研修生を想定しているか？他分野から人を引き込むためには、基礎研修受講必須で大丈夫か？

(委員) 画像処理の専門家が、放射線のことを学ぶのは良いことでは？間口を広くしてほしい。

(委員) 別分野の人ならば、基礎研修受講なしで、オブザーバー参加で受けられるようにしたらどうか。

(委員) 結論としては、染色体研修は2つに分ける。基礎研修から積み上げる形で染色体研修を受講してもらう。そのためには、基礎研修を容易に受けられるようにする必要があるが、量研機構放医研でオンデマンド配信を行ったらどうか。

(オブザーバー) 量研機構放医研が基礎研修のイニシアチブを取ると自治体など地方の組織が研修をやらなくなる恐れがあり、難しい面がある。

- どのような対象者に基礎研修を受けさせるのかという質問あり
⇒大規模災害時の対応を想定した人材育成であり、基礎研修は受講した方が良く考える。ただし、オブザーバー参加を認めて門戸を広げるような対応は必要と考える。併せて、前述の人材育成をスムーズにするためにも基礎研修をオンデマンドで受講できるような取組をお願いしたい。

(5) 線量評価に関する研修の実施報告

オブザーバーより R3-2-11~12 に基づき、線量評価関連の原子力災害医療研修について説明があった。

(オブザーバー) 体外計測研修とバイオアッセイ研修については、昨年度オンライン研修だったが、今年度は、実習を加えて新棟（今年度完成した高度被ばく医療線量評価棟）で新しい研修を計画中。染色体については、高度専門染色体研修を新設。実績については、新型コロナで研修生が集まらないのが問題。WBC 研修の内容が難しいとの声があり、変更を予定。

(6) 過去研修の追加

委員長代理より R3-2-13~14 に基づき、過去研修の追加について説明があった。

(委員) 令和 3 年度末までに出されたリストは認定している。その後追加で申請された研修については、内容が原子力災害医療研修に値するかどうかの判断が必要なものがある。

(事務局) リストがダブっているものがあるので確認が必要。メールを出す。証拠書類は事務局で確認する。

- ▶ 個々の確認が事務局で対応済であるが、整理したリストと個々の資料の対応付けが難しいので、事務局より再度整理して委員に送付し、確認いただくこととする。

(7) 今後の予定：これまでの認定状況と今後の研修開催予定

委員長代理より R3-2-15 に基づき、今後の予定について説明があった。

(委員) 中核人材研修と派遣チーム研修については従来通り行えばよい。染色体関係を含む線量評価関係の研修については、認定基準を作成しなくてはならない。QST で開催する研修については録画やビデオ撮影を行うので、それを見て、研修内容を確認し、次回および次々回委員会でテキストを認定し、認定基準を決める。

(委員) 次回および次々回委員会で決めていく必要があるが、開催日程は？

(委員) 1～3月で2回開催。

(事務局) 12月～1月と2月～3月で年末年始を外して開催予定

(委員) 直近の案内やビデオでやれるところはやっていただき、第3回委員会で揉んで、第4回委員会で認めるという流れになる。スケジュール的にはタイトだが、よろしくをお願いします。

(事務局) この他に講師養成研修も開催する必要があり、どのような研修を実施するか後ほど送付させていただきますので、よろしくをお願いします。

(委員) ここに出ている研修及び講師養成研修について、準備でき次第認定作業ができるようということで配慮をお願いします。最後に、委員の先生方からご意見ありますか？

(委員) 2つの拠点病院からの要望として、新型コロナだったので、修了証の有効期限を1年延長してもらえないかとの声あり。

(委員) そういう意見は他にもあると思うが、この場では決められない。ただ、臨機応変に考えていきたい。先生、本日初参加ですが、コメントなどあればお願いします。

(委員) 中核人材研修を受講しなくてはならないので、他県から基礎研修を受けたいという人や、以前受講できなかった一つの講義のみ受講したいという人もいたが、原安協では受け入れている。このような情報の共有が大事だと思う。

以上

【令和3年度第2回認定委員会 配布資料】

資料 R3-2-1：R3 年度第1回被ばく医療研修認定委員会議事概要案

資料 R3-2-2：委員名簿

資料 R3-2-3：被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（web 公開版）

資料 R3-2-4：被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（細則）（web 公開版）

資料 R3-2-5：修正案-被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め

資料 R3-2-6：修正案-被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（細則）

資料 R3-2-7：修正のポイント

資料 R3-2-8：染色体分析研修の新提案（線量評価部会資料）

資料 R3-2-9：新体系の変更案

資料 R3-2-10：染色体分析研修の研修認定基準案

資料 R3-2-11：線量評価関連の研修概要案（線量評価部会資料）

資料 R3-2-12：線量評価関連の研修認定基準案

資料 R3-2-13：過去研修の追加の要望リスト

資料 R3-2-14：今年度の研修認定の状況

資料 R3-2-15：今後の研修開催予定

参考資料 1：

被ばく医療研修認定委員会の設置について（令03放（規則）第5号）

参考資料 2：

緊急時の甲状腺被ばく線量モニタリングに関する検討チーム会合報告書(案)

3.2.3. 令和3年度第3回被ばく医療研修認定委員会 議事概要

1. 日時 令和3年12月21日（火）14：00～16：00
2. 場所 Webex Meeting によるウェブ会議
3. 出席者；

安田委員長、富永委員長代理、井瀧委員、宇佐委員、數藤委員、武田委員、土岐委員、廣橋委員、山本委員、吉村委員
オブザーバー：（原子力規制庁）辰巳企画官、平瀬専門職、苫米地専門職（量研）立崎、熊谷、栗田、松尾、深堀
事務局：相良、米山、櫻庭、藤田、府馬

4. 議題

- (1) 前回議事概要の確認
- (2) 運用取決めの修正について
- (3) 更新制度の提案について
- (4) 研修認定基準の作成について
- (5) 過去研修リストの追加について
- (6) その他
 - ・今年度の認定状況

5. 議事概要

(1) 前回議事録の確認

前回議事録 R3-3-1 について確認が行われ、意見があれば会議中にご意見をいただくということで、特に意見なく了承された。

なお、委員長から、委員会での審議及び議決事項は原子力規制庁に逐次報告し、密にコンタクトするよう事務局への要望がなされた。

(2) 運用取決めの修正について

委員長代理より、R3-3-2「修正案-被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め」及びR3-3-3「修正案-被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（細則）」に基づき、運用取決めに係る修正内容について、スライドを使用して説明があった。

年内に分割開催の運用を行う予定があれば、本日承認をいただきR4年1月1日施行としたいと考えており、山本委員及び宇佐委員より主催者（原安協及び支援センター）としてご質問及びご意見をいただき、その確認と回答をもってR4年1月1日の施行とすることが了承された。運用取決めおよび細則については、了承された修正を反映したものを委員に送付し、再度確認いただいたのち、承認することとなった。

(3) 更新制度の提案について

委員長代理より、R3-3-4「受講資格と更新制度案」に基づき、更新制度の課題とその対策に向けた改善提案について、スライドを使用して説明があった。適用の意図を明確にすべきとの意見があり、現場の意見を踏まえて可能な限り中核人材の資格維持延長を図る、COVID-19

感染対策による受講機会の制限への対応ということであるとの回答があった。更なる目標としては基礎研修をオンデマンド化すること、中核人材研修のフォローアップについてはアンケート（拠点病院等に対して現在調査中で、結果は R4 年 5 月にまとまる予定）を踏まえて審議することとし、「基礎研修の受講による保有資格の延長」について了承された。

なお複数の委員から、中核人材研修の更新のために 3 日間の研修を課すのは原子力災害拠点病院への過大な負荷であり難しいこと、DMAT のように 1~2 日程度での技能維持研修を検討すべきであること、の意見が出され、あわせて DMAT よりも資格更新に関する要求水準を低くすべきとの意見も出された。

(4) 研修認定基準の作成について

委員長代理より、R3-3-5「研修評価の手順」、R3-3-6「評価様式」、R3-3-7「染色体分析研修の評価結果」、R3-3-8「染色体分析研修認定基準案」、R3-3-9「染色体分析研修-標準テキスト」に基づき、スライドを使用して説明があった。基礎研修はどのような目的でこの研修が必要なのかを理解してもらうために必要であると考え、臨床検査技師等に受講を促すことを考えると基礎研修の受講がネックになる。対象は幅広に取ることは委員会のコンセンサスとする。提示した受講資格を運用取決めに反映させる。細則には他の研修の認定基準を作成し、今年度中に全ての認定基準を承認する。

今後に向けては、染色体分析研修及び高度専門染色体分析研修、その他の研修の目的、目標、育成される人材像等のあり方を整理し、審議頂くこととする。

(5) 過去研修リストの追加について

委員長代理より R3-3-10「過去研修の追加リスト」に基づき、追加する項目について了承された。ただし、NIRS 被ばく医療セミナーは第 18 回のみではないのではとの意見があり、関係分について説明資料をつけて、追って委員各位に確認をいただくこととする。

(6) その他

・今年度の認定状況

事務局より R3-3-11「今年度の研修認定の状況」に基づき、今年度の認定状況について説明があった。

・委員より、中核人材研修等を既に修了しているが基礎研修を終了していないために更新が難しい方の様に、基礎研修修了相当の知識を持っている方について、受講の簡易化のためにオンデマンド研修とする

ことには異議はないが、基礎研修を全てオンデマンド研修とすることは、十分な知識獲得を担保するのが困難と思われるため反対する、との意見があった。

・委員長からの説明（原子力規制庁からの疑念に対する回答を含む）

- 1) 認定委員会の委員の利益相反について
- 2) 認定委員会の業務のシステム化の検討について
- 3) 福井大学の取組について

・原子力規制庁からのコメント

原子力規制庁の疑念に対し、委員長からご説明があり感謝する。今後もオブザーバー参加したい。

【令和3年度第3回認定委員会 配布資料】

資料 R3-3-1：R3 年度第 2 回被ばく医療研修認定委員会議事概要案

資料 R3-3-2：修正案-被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め

資料 R3-3-3：修正案-被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め(細則)

資料 R3-3-4：受講資格と更新制度案

資料 R3-3-5：研修評価の手順

資料 R3-3-6：評価様式

資料 R3-3-7：染色体分析研修の評価結果

資料 R3-3-8：染色体分析研修認定基準案

資料 R3-3-9：染色体分析研修-標準テキスト

資料 R3-3-10：過去研修の追加リスト

資料 R3-3-11：今年度の研修認定の状況

資料 R3-3-12：第 18 回 NIRS 被ばく医療セミナープログラム

参考資料 1：被ばく医療研修認定委員会の設置について（令 0 3 放（規則）第 5 号）

参考資料 2：委員リスト

参考資料 3：被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（web 公開版）

参考資料 4：被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（細則）（web 公開版）

3.2.4. 令和3年度第4回被ばく医療研修認定委員会 議事概要

1. 日時：2022 年 2 月 28 日（月）14：00 ～ 15：50
2. 場所：Microsoft Office 365 Teams によるウェブ会議
3. 出席者：

安田委員長、富永委員長代理、石川委員、井瀧委員、宇佐委員、數藤委員、武田委員、土岐委員、廣橋委員、山本委員、吉村委員
オブザーバー；（量研）立崎、熊谷、府馬、松尾、三嶋、深堀
事務局：相良、米山、櫻庭、藤田

4. 議題

- (1) 前回議事概要確認・メール審議結果報告
- (2) 染色体分析研修 認定基準
- (3) 線量評価関連の研修評価の結果と認定基準
- (4) 各研修の目的、目標、対象者の整理
- (5) 今後の予定

5. 議事概要

- (1) 前回議事概要確認・メール審議結果報告

前回議事録（資料 R3-4-1）について確認が行われ、特に意見なく了承された。

また、委員長代理より前回の宿題事項のメール審議結果について、スライド及び資料 R3-4-2 に基づき説明があった。改正した運用取り決めと運用細則（1月1日版）は、2月1日から認定委員会 HP で公開した。過去研修リストに追加申請が出ていた NIRS 被ばくセミナーについては、現行の中核人材研修とプログラムが類似している第 17 回と 18 回は追加するが、第 19 回はプログラムが異なるので追加しないこととした。

- (2) 染色体分析研修 認定基準

委員長代理より染色体分析研修の認定基準案（受講資格、講義・実習項目、標準テキスト・追加資料、研修開催責任者、講師、開催形式）について、資料 R3-4-3 に基づき、スライドを使用して説明があった。審議の結果、了承された。修正された標準テキスト（資料 R3-4-4）については、委員にメール審議として 3/11 を期限として確認、意見をいただくことになった。

- (3) 線量評価関連の研修評価の結果と認定基準

委員長代理より甲状腺簡易測定研修の認定基準案（受講資格、講義・実習項目、標準テキスト・追加資料、研修開催責任者、講師、開催形式）について、資料 R3-4-5 及び R3-4-6 に基づき、評価結果も含めてスライドを使用して説明があった。認定基準については委員の了解が得られた。講義「話題提供」は、甲状腺簡易測定に関連する内容とされ、研修開催責任者に一任されることになった。また、修正され

た標準テキスト（資料 R3-4-7）については、委員にメール審議として 3/11 を期限として確認、意見をいただくことになった。

なお、甲状腺内部被ばく線量測定マニュアル案策定が進行中であり、具体的な検討は今後の対応となるため、マニュアルや実施体制が示された時点で、研修対象者や内容を再度検討する必要がある。

委員長代理より WBC 研修の認定基準（受講資格、講義・実習項目、標準テキスト・追加資料、研修開催責任者、講師、開催形式）について、資料 R3-4-5 及び R3-4-6 に基づき、評価結果も含めてスライドを使用して説明があった。委員の評価の意見を踏まえバイオアッセイの講義を外すことになった。講義「話題提供」は、公衆の線量評価に関連する内容とされ、研修開催責任者に一任されることになった。標準テキスト修正案は現在準備中であり準備出来次第、委員にメール審議をお願いすることとなった（可能であれば期限は 3/11）。

委員長代理より高度専門染色体分析研修の認定基準について、資料 R3-4-5 及び R3-4-6 に基づき、評価結果も含めてスライドを使用して説明があった。オンラインのライブ方式での研修を認めること、講師資格に、研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者を追加すること、今回の評価に供した標準テキスト（資料 R3-4-8）を承認することを審議し、委員の了解が得られた。

委員長代理より体外計測研修の認定基準について、資料 R3-4-5 及び R3-4-6 に基づき、評価結果も含めてスライドを使用して説明があった。受講資格を WBC 研修もしくは甲状腺簡易測定研修修了者として、講師資格に研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者を追加すること、などを審議し、委員の了解が得られた。標準テキストは現在修正中であり準備出来次第、委員にメール審議をお願いすることとなった（可能であれば期限は 3/11）。

委員長代理よりバイオアッセイ研修の認定基準について、資料 R3-4-5 及び R3-4-6 に基づき、評価結果も含めてスライドを使用して説明があった。講師資格に研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者を追加すること、受講資格は高度被ばく医療支援センターに限る必要はないこと、今回の評価に供した標準テキスト（資料 R3-4-9）を承認することなどを審議し、委員の了解が得られた。

(4) 各研修の目的、目標、対象者の整理

委員長代理より、各研修の目的、目標、対象者の整理について、資料 R3-4-10 に基づき、スライドを使用して説明があった。

各研修で、どのような人材が育つのか全体像がわかりやすくなったとの意見が複数あった。また、基礎研修の目的で「原子力防災」と記載されているのが気になる、細かく目的や目標を書いているが、拠点病院などで中心として診療に当たるといった記述が目的にあれば、もっと明確になるのではないかと、との意見もあった。今後研修に入れた方がよい講義など、さらに意見を募集することになった。

(5) 今後の予定

委員長代理よりスライドを使用して、以下の今後予定について説明があった。

- ・ 講師養成研修、高度専門被ばく医療研修の評価：3/10〆切
- ・ 講師養成研修、高度専門被ばく医療研修の認定基準：3/14 委員会で承認
- ・ 染色体分析研修、甲状腺簡易測定研修の標準テキストの承認：コメントは3/11〆切
- ・ WBC 研修・体外計測研修の標準テキストの承認：3/14 委員会で承認
- ・ 講師養成研修の標準テキスト：3/14 委員会後にメール審議で承認
また、次年度の認定委員会の所掌範囲や活動内容について、第5回認定委員会で説明がなされることが紹介された。

以上

【令和3年度第4回認定委員会 配布資料】

資料 R3-4-1：R3 年度第3回被ばく医療研修認定委員会議事概要案

資料 R3-4-2：NIRS 被ばく医療セミナープログラム

資料 R3-4-3：染色体分析研修 認定基準

資料 R3-4-4：染色体分析研修 標準テキスト

資料 R3-4-5：線量評価関連の研修評価結果とコメント

資料 R3-4-6：線量評価関連の研修 認定基準案

資料 R3-4-7：甲状腺簡易測定研修 標準テキスト

資料 R3-4-8：高度専門染色体分析研修 標準テキスト

資料 R3-4-9：バイオアッセイ研修 標準テキスト

資料 R3-4-10：各研修の目的・目標・対象者一覧案

参考資料1：被ばく医療研修認定委員会の設置について（令03放（規則）第5号）

参考資料2：委員リスト

参考資料3：被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（web 公開版）

参考資料4：被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（細則）（web公開版）

3.2.5. 令和3年度第5回被ばく医療研修認定委員会 議事概要

1. 日時：2022年3月14日（月）14：00～15：50
2. 場所：Microsoft Office 365 Teams によるウェブ会議
3. 出席者：
安田委員長、富永委員長代理、石川委員、井瀧委員、武田委員、土岐委員、廣橋委員、山本委員、吉村委員
オブザーバー；（量研）山下、立崎、三嶋、深堀、府馬、栗田、松尾
事務局：相良、櫻庭、藤田
4. 議題
 - (1) 前回議事概要確認
 - (2) 講師養成研修・高度専門被ばく医療研修の認定基準、専門研修等の修了基準
 - (3) 標準テキスト修正案
 - (4) 運用取決め、運用細則修正案
 - (5) 各研修の目的、目標、対象者の整理
 - (6) 過去研修リスト
 - (7) 今年度の研修認定実績
 - (8) 令和4年度以降の委員会活動について
5. 議事概要

委員会の冒頭、山下放医研所長よりあいさつがあり、委員の皆様への謝辞が述べられた。

 - (1) 前回議事概要確認

前回議事概要 R3-5-1 について事務局より説明が行われ、特に意見なく了承された。
 - (2) 講師養成研修・高度専門被ばく医療研修の認定基準、専門研修等の修了基準

委員長代理より講師養成研修の認定基準（受講資格、講義項目、標準テキスト・追加資料、研修開催責任者、講師、開催形式）の見直しについて、資料 R3-5-2 に基づき、スライドを使用して説明があった。オンラインのライブ方式での研修を認めること、講師資格には研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有している者を追加することなど審議され、了承された。

続いて、委員長代理より高度専門被ばく医療研修の認定基準案について、資料 R3-5-2 に基づき、スライドを使用して説明があった。講義項目は高度被ばく医療支援センター連携会議で決定すること、オンラインのライブ方式での研修を認めること、講師資格には研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有している者を追加すること、テキストは都度変更されるので標準テキストとして認定しないことなど審議され、了承された。

また、委員長代理より中核人材研修以外の専門研修及び高度専門研修の修了基準について、資料 R3-5-2 に基づき、スライドを使用して説明があった。8割以上の講義を受講することという基準については、全て受講でなくてよいのか、8割の対象が曖昧（時間なのかコマ数なのか）とのコメントがあった。オンライン開催の実情（急用で一時離席、出席確認時のトラブルなど）を踏まえた対策であり8割については了解され、各研修の全コマ数の8割とした記載に見直すことを前提に了承された。

(3) 標準テキスト修正案

委員長代理より講師養成研修、甲状腺簡易測定研修、染色体分析研修、WBC研修の各標準テキストについて、資料 R3-5-3～R3-5-6 に基づき、スライドを使用して説明があった。委員のコメントを踏まえた見直しを行っていることで、委員の了承が得られた。

体外測定研修の標準テキストについては時間が足らず修正未対応であるが、今年度分については認定済とする。今後の修正については積み残し事項として、次年度の新しい体制で、次の研修開催に間に合うように審議を行うこととなった。

(4) 運用取決め、運用細則修正案

委員長代理より、被ばく医療研修認定委員会の運用取決め、運用細則修正案について、資料 R3-5-8 及び R3-5-9 に基づき、スライドを使用して説明があった。今回説明した資料の内容を踏まえた見直しを行っており、修了基準等で委員からの意見等を反映することを前提に了承された。

(5) 各研修の目的、目標、対象者の整理

委員長代理より各研修の目的、目標、対象者の整理について、資料 R3-5-10 に基づき、スライドを使用して説明があった。前回の委員会での委員の意見を踏まえて見直しを行っており、審議の結果、了承された。

(6) 過去研修リスト

委員長代理より過去研修リストについて、資料 R3-5-11 に基づき、スライドを使用して説明があった。前回の委員会で報告した第 17 回、第 18 回 NIRS 被ばく医療セミナーが追加されており、了承された。

(7) 今年度の研修認定実績

委員長代理より今年度の研修認定実績について、資料 R3-5-12 に基づき、スライドを使用して説明があった。現時点で 83 件の研修が認定または審議されていることが説明された。

委員長より認定作業のシステム化を早期に実現し、委員の負担を軽減できる取組をお願いしたとの発言あり。事務局判断で済ませられるものがあるのではないか、月単位でまとめて作業できないか、実施報告の時に開催申請も添付されると作業しやすいとのご意見があり、事務局で検討し、対応することとなった。

(8) 令和 4 年度以降の委員会活動について

三嶋事務局長より令和 4 年度以降の本委員会の所掌の見直しが支援センター連携会議の体制見直しの一環で行われることについて、スライドを使用して説明があった。3 月 18 日開催の第 4 回支援センター連携会議で審議事項として附議し、4 月 1 日から新体制で進める予定である。

(9) 検討課題の積み残し

委員長より本委員会の今後の検討事項として以下がピックアップされた。

- 1) R5 年度有効期限切れとなる受講者への対応（基礎研修受講で期限延長などの方策）
- 2) 基礎研修の e-Learning 化、オンデマンド研修の検討
- 3) フォローアップ（技能維持）研修の検討
- 4) 甲状腺簡易測定研修；マニュアルに適応した内容に変更
- 5) 医療関係者以外の研修受講の門戸を拡張する可能性

最後に出席委員全員からコメントをいただき、令和 3 年度第 5 回被ばく医療研修認定委員会を終了した（メール審議は年度末まで継続して開催した）。

以上

【令和 3 年度第 5 回認定委員会 配布資料】

資料 R3-5-1：R3 年度第 4 回被ばく医療研修認定委員会議事概要案

資料 R3-5-2：認定基準・修了基準案

- 資料 R3-5-3：講師養成研修 標準テキスト
- 資料 R3-5-4：甲状腺簡易測定研修 標準テキスト
- 資料 R3-5-5：染色体分析研修 標準テキスト
- 資料 R3-5-6：WBC 研修 標準テキスト
- 資料 R3-5-7：体外計測研修 標準テキスト
- 資料 R3-5-8：被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め修正案
- 資料 R3-5-9：被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め（細則）修正案
- 資料 R3-5-10：各研修の目的・目標・対象者一覧案
- 資料 R3-5-11：過去研修リスト
- 資料 R3-5-12：令和 3 年度研修認定実績一覧
- 参考資料 1：被ばく医療研修認定委員会の設置について（令 0 3 放（規則）第 5 号）
- 参考資料 2：委員リスト

4. 研修制度

4.1. 研修体系の変更

令和2年度までに決定していた研修体系のうち、染色体分析研修については、高度被ばく医療支援センター連携会議 線量評価部会より高度専門研修の染色体分析研修を基礎的な研修とより高度な染色体分析の研修の2つに分ける提案があった。そこで、研修体系として、専門研修としての「染色体分析研修」と、高度専門研修としての「高度専門染色体分析研修」に変更することとした。また、甲状腺簡易測定研修、染色体分析研修、バイオアッセイ研修は、原子力防災、医療体制等の知識も必要であることを考慮して、原子力災害医療基礎研修の受講を原則として必須とすることとなった。

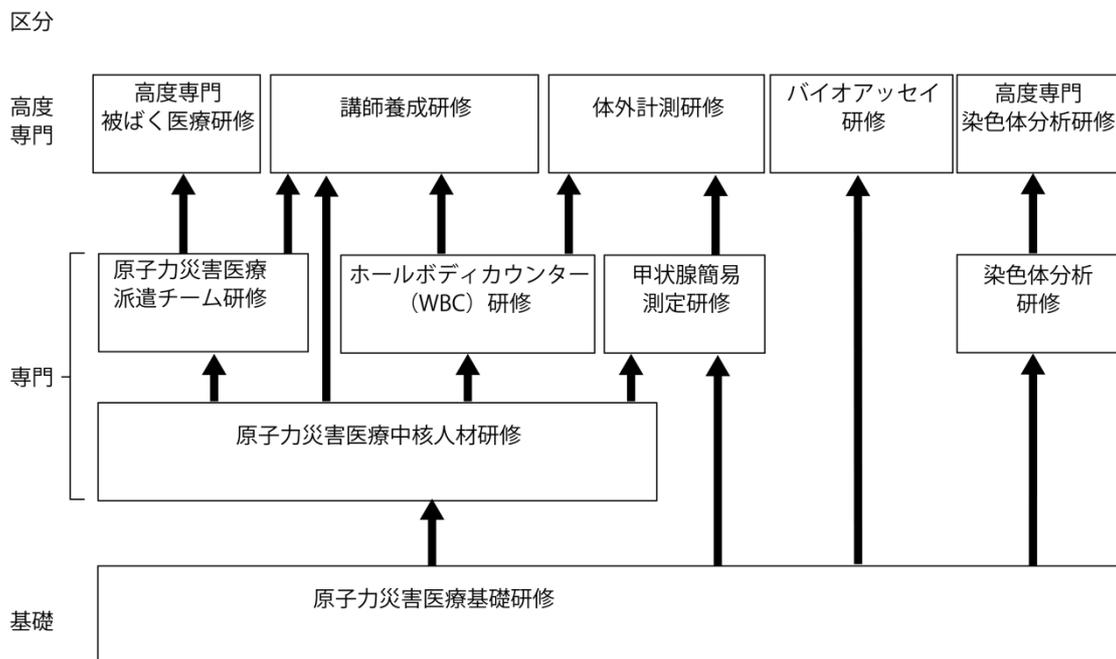


図 4-1 2021 年度に変更した研修体系

4.2. 認定基準の作成の経緯

令和3年3月までの認定医委員会では、原子力災害医療基礎研修（以下、「基礎研修」）、原子力災害医療中核人材研修（以下、「中核人材研修」）、原子力災害医療派遣チーム研修（以下、「派遣チーム研修」）の認定基準、標準テキスト、修了基準を策定した。研修体系の他の研修については、認定基準等を策定していなかったことから、令和3年度（2021年度）は、これらの研修

は年度末までに認定基準等を策定し、研修の認定、修了認定を確定することとし、研修開催と認定基準等の策定を並行して実施することになった。

研修認定基準作成については、今年度開催された研修のオブザーバー参加あるいは録画ビデオの視聴により、研修の時間割、講義と実習の項目と内容、指導方法、テキストの項目と内容について評価し、その結果を基に各研修の認定基準を作成することとした。

なお、高度専門被ばく医療研修については、各支援センターによる高度被ばく医療支援センター連携会議医療部会で毎年異なるテーマを決定し、そのテーマに応じて講義、講師が決定されるため、研修認定基準の作成のための研修評価は不可能であり、現状の手順である高度被ばく医療支援センター連携会議による承認等を認定基準とした。

4.2.1. 各研修の評価項目と結果

各研修の評価項目と結果は次のとおりであった。

【対象者】

この評価結果により、WBC研修、甲状腺簡易測定研修、講師養成研修、高度専門染色体分析研修は、評価内容を受講資格とし、染色体分析研修、体外計測研修、バイオアッセイ研修は、委員の評価による意見を反映させた受講資格を認定委員会で審議した。

染色体分析研修については、染色体分析ができる技術者に門戸を開くため、「臨床染色体分析を実施している専門家もしくは被ばく医療に関係する部署に所属する者」を加えた。

高度専門研修である体外計測研修の対象者は、体外計測での線量評価に携わる者もしくは指導的立場の者とした。また、バイオアッセイ研修の対象者は、バイオアッセイに従事する研究者等で原子力災害時に基幹高度被ばく医療支援センターへバイオアッセイでの線量評価に協力できる者とした。

表 4-1 各研修の研修対象者と評価結果

研修	評価項目	評価結果
WBC研修	①原子力災害医療中核人材研修修了者で体外計測に携わる要員	妥当 11 要修正 0
甲状腺簡易測定研修	①基礎研修修了で甲状腺簡易計測に携わる要員	妥当 11 要修正 0
染色体分析研修	①既に染色体分析を1ヶ月以上学んだ5支援センターの分析経験者 ②臨床染色体分析を実施している専門家（臨床細胞遺伝学認定士）	妥当 6 要修正 5

	③行政機関の被ばく医療に関係する部署や臨床検査室の室長以上の方 ④他分野の研究者	
講師養成研修	①原子力災害医療中核人材研修、原子力災害医療派遣チーム研修、ホールボディカウンター研修の修了者 ②講師資格の保有者	妥当 10 要修正 1
体外計測研修	①原子力災害医療中核人材研修修了者で体外計測に携わる要員	妥当 7 要修正 4
バイオアッセイ研修	①原子力災害医療中核人材研修修了者で体外計測に携わる要員	妥当 4 要修正 7
高度専門 染色体分析研修	①染色体分析研修修了者	妥当 11 要修正 0

【講義】

評価結果でノート作成についての意見があった甲状腺簡易測定研修及び染色体分析研修については、ノートを作成し、その他の研修を含めて、修正の意見については、テキストを修正して、認定委員会に標準テキストとして提案した。

表 4-2 WBC 研修の講義の評価項目と評価結果

講義 1 線量評価の概念	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 2
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
講義 2 体外計測法	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 2
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
講義 3 バイオアッセイ法	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 7 <input type="checkbox"/> 不要 4 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 3 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 7 <input type="checkbox"/> 不要 4 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 3 <input type="checkbox"/> 要修正 0
話題提供 体外計測法	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 1 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 1 <input type="checkbox"/> 要修正 1 <input type="checkbox"/> 評価不能 1
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 1 <input type="checkbox"/> 要修正 0

表 4-3 甲状腺簡易測定研修の講義の評価項目と評価結果

講義 1 原子力災害対応	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 7 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正 4
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正 2
講義 2 甲状腺簡易検査	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 7 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正 4
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正 1
話題提供 福島原発事故における住民の初期内部被ばく線量評価の経験	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 6 <input type="checkbox"/> 不要 2 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 6 <input type="checkbox"/> 不要 1 <input type="checkbox"/> 要修正 4
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 1 <input type="checkbox"/> 要修正 1

表 4-4 染色体分析研修の講義の評価項目と評価結果

講義 1 放射線事故災害と被ばく医療	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 2
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
講義 2 染色体分析による被ばく線量評価	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 7 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 4
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0

表 4-5 講師養成研修の講義の評価項目と評価結果

講義 1 放射線測定器の取り扱い実習のポイント	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 2
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
講義 2 防護装備着脱実習のポイント	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 2
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 2
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
講義 3 医療施設養生実習のポイント	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
講義 4 WBC 計測実習のポイント (中核人材研修、WBC 研修)	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0

講義 5 傷病者汚染検査実習のポイント	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
講義 6 除染実習のポイント	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正 2
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
講義 7 被ばく医療実習のポイント	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
講義 8 甲状腺簡易測定実習のポイント	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
講義 9 γ線スペクトロメトリ実習の ポイント	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
講義 10 内部被ばく線量の計算のポイン ト	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	ノートの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0

表 4-6 体外計測研修の講義の評価項目と評価結果

講義 1 ホールボディカウンタ (WBC) を用いた体外計測	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 2
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 2
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 2
講義 2 甲状腺モニタを用いた体外計 測	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正
話題提供 原子力災害時の甲状腺モニタ リング	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正

表 4-7 バイオアッセイ研修の講義の評価項目と評価結果

講義 1 バイオアッセイに基づく内部被 ばく線量評価	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 評価なし 1

話題提供 プルトニウム内部被ばく事故対応	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0

表 4-8 高度専門染色体分析研修の講義の評価項目と評価結果

講義 高度染色体分析法	コンテンツ全体	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正
	スライドの内容	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正
	講義時間	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 要修正 1

【実習】

実習については、全ての研修で概ね妥当の評価であった。この結果により認定基準としては今年度実施された内容を認定委員会に提案し、審議された。

表 4-9 WBC 研修の実習の評価項目と評価結果

実習 1 「ガンマ線スペクトロメトリ実習」 ・検出器の概要と測定方法 ・校正 ・計数効率の算出 ・未知試料の測定と試料の評価	内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 評価不能 1
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 評価不能 1
実習 2 「WBC 実習」 ・ファントムの使い方 ・効率校正 ・点線源を用いた校正チェック ・計数効率の算出 ・被験者の測定 ・体内残留量、摂取量、内部被ばく線量の算出 ・日常のメンテナンス方法	内容	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 評価不能 1
実習 3 「内部被ばく線量の計算」 ・MONDAL3 の使い方 ・Cs-137 急性摂取の内部被ばく線量の計算 ・原子力災害時の小児、成人のI-131 急性摂取の内部被ばく線量の計算 ・Co-60 急性摂取の内部被ばく線量の計算 ・ウランの慢性摂取の内部被ばく線量の計算 ・作業員の慢性摂取の内部被ばく線量の計算 ・核燃料施設作業員の複数核種の慢性摂取の内部被ばく線量の計算	内容	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当 11 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 0
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 評価不能 1

表 4-10 甲状腺簡易測定研修の実習の評価項目と評価結果

実習 1 「甲状腺簡易測定」 ・NaI シンチレーションサーベイメーターの使い方 ・環境バックグラウンドレベル測定 ・被検者バックグラウンドレベル測定 ・甲状腺測定 ・高レベルバックグラウンドでの被検者 BG 測定 ・高レベルバックグラウンドでの甲状腺測定 ・記録用紙の記入	内容	<input type="checkbox"/> 妥当 8 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 3
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当 10 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当 9 <input type="checkbox"/> 不要 0 <input type="checkbox"/> 要修正 1

実習2「新甲状腺モニターデモンストラ ーション」 ・新モニターの概要 ・測定方法	内容	<input type="checkbox"/> 妥当3 <input type="checkbox"/> 不要2 <input type="checkbox"/> 評価不能6
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当3 <input type="checkbox"/> 不要2 <input type="checkbox"/> 評価不能6
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当3 <input type="checkbox"/> 不要2 <input type="checkbox"/> 評価不能6

表 4-11 染色体分析研修の実習の評価項目と評価結果

実習 画像診断練習	内容	<input type="checkbox"/> 妥当10 <input type="checkbox"/> 保留1 <input type="checkbox"/> 要修正0
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当10 <input type="checkbox"/> 保留1 <input type="checkbox"/> 要修正0
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当9 <input type="checkbox"/> 保留1 <input type="checkbox"/> 要修正1

表 4-12 体外計測研修の実習の評価項目と評価結果

実習「ガンマ線スペクトロメトリ」 ・エネルギー校正 ・ピーク効率校正 ・I-131 ピーク効率計算 ・甲状腺中I-131 残留量の計算	内容	<input type="checkbox"/> 妥当10 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正1
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当10 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正1
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当11 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正0

表 4-13 バイオアッセイ研修の実習の評価項目と評価結果

実習1「前処理；有機物分解」 ・尿試料のサンプリング ・湿式灰化法による有機物分解 ・鉄共沈 ・Puの価数調整	内容	<input type="checkbox"/> 妥当11 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正0
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当11 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正0
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当10 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 評価なし1
実習2「前処理；核種分離」 ・レジンのコンディショニング ・サンプル溶液の濾過 ・TEVAとDGAレジンの吸着 ・TEVEとDGAレジンの溶離	内容	<input type="checkbox"/> 妥当11 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正0
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当11 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正0
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当10 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 評価なし1
実習3「測定試料作成及び測定」 ・溶離液の蒸発乾固 ・電着試料作成 ・試料測定	内容	<input type="checkbox"/> 妥当11 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正0
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当11 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正0
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当10 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 評価なし1
実習4「内部被ばく線量の計算」 ・MONDAL3の使い方 ・Cs-137急性摂取の内部被ばく線量の計算 ・核燃料施設作業員の複数核種の慢性摂取の内部被ばく線量の計算	内容	<input type="checkbox"/> 妥当10 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正1
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当11 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正0
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当10 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 評価なし1

表 4-14 高度専門染色体分析研修の実習の評価項目と評価結果

画像診断練習 ・二動原体分析 ・FISH転座分析 ・核分裂指数の判定 ・二核細胞における微小核の判定	内容	<input type="checkbox"/> 妥当11 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正0
	実習時間	<input type="checkbox"/> 妥当11 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正0
	指導方法	<input type="checkbox"/> 妥当10 <input type="checkbox"/> 不要0 <input type="checkbox"/> 要修正1

4.3. 分割開催

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、受講生が1か所に集合しての研修開催が非常に困難であった。講義はオンラインでの実施が可能であるが、実習、机上演習はオンラインでの実施が困難であること、感染症対策のため研修が中断される可能性もあったことから、研修を分割で開催することについて、認定委員会で議論し、分割での開催を可能とした。

【分割開催での取り決め】

- 適応；COVID-19 感染対策に関連した場合のみ
 - 実施機関等の都合により中断した場合
 - 受講者の都合（発熱、濃厚接触者の認定等）により中断した場合
 - 研修開催責任者の判断で中断できる。
- 中断や中止で別の研修を受講する場合は、実施機関の判断で受講を決定できる。
 - 中止、中断した実施機関が受講者に別の研修について案内する。
 - 委員会事務局から支援センターに分割研修について協力依頼する。
- 中断の期間；開催日から翌年度末までに再開し、研修終了すること
- 令和4年度開催分までの措置：修了はR5年度末まで
- 中断に関連する資料、報告はシステムでは入力できないため、紙ベースでの報告、連絡となる。
- 聴講、出席した講義、実習、机上演習の受講証明書を研修開催責任者が発行する。

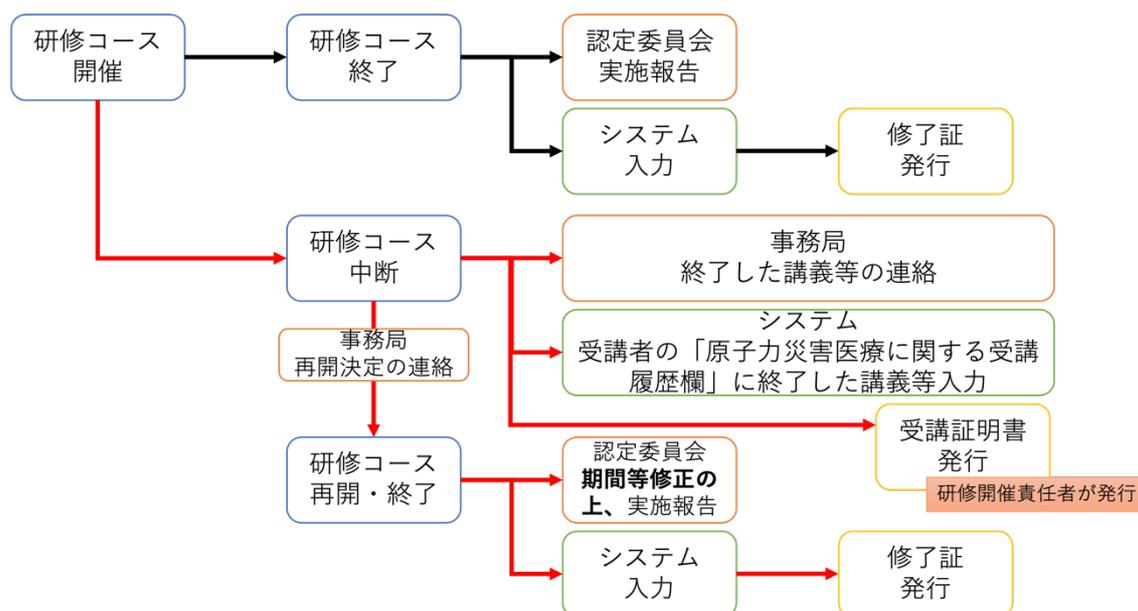


図 4-2 分割研修の開催フロー（同一主催の研修受講の場合）
黒矢印は通常のカン開催フロー。赤矢印が分割開催する場合のフローとなる。

このフローは受講者が同じ主催者の研修を受講する場合を示す。

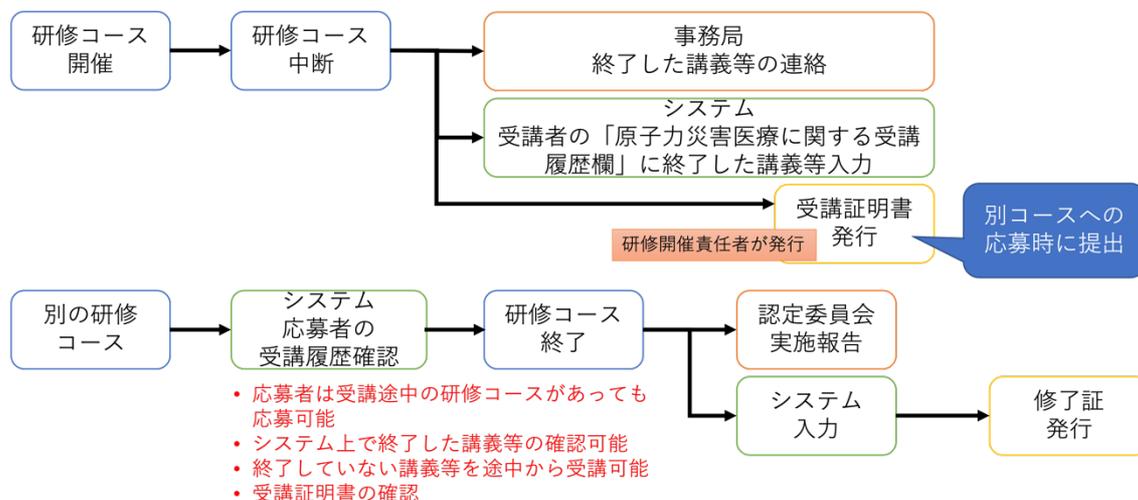


図 4-3 分割研修の開催フロー（別の研修受講の場合）

研修が中断された場合に、別の主催者の研修を受講する場合のフローを示す。

4.4. 専門研修の研修認定基準

令和 3 年度に量研機構放医研で実施された専門研修である WBC 研修、甲状腺簡易測定研修、染色体分析研修の時間割、講義内容、講義時間等は評価の結果で概ね妥当との判断であった。

なお、WBC 研修のバイオアッセイの講義は、上位の研修である体外計測研修、バイオアッセイ研修で聴講することになるため不要となった。WBC 研修と甲状腺簡易測定研修の話題提供については、量研機構放医研以外での実施が難しい内容であるが、評価の結果、コンテンツ全体、講義内容、講義時間については妥当との意見が多かったことから、認定基準としては、話題提供の講義はそれぞれの研修開催責任者の判断で、公衆の線量評価に関連すること、甲状腺簡易測定に関連することについて講義することとした。染色体分析研修は、講義項目、時間等についての修正の意見はなかった。

各研修の評価結果に基づき、認定基準を議論し各基準を定めた。

4.5. 高度専門研修の研修認定基準

令和 3 年度に量研機構放医研で実施された高度専門研修である講師養成研修、体外計測研修、バイオアッセイ研修、高度専門染色体分析研修の時間割、講義内容、講義時間等は評価の結果で概ね妥当との判断であった。

なお、体外計測研修の話題提供については、専門研修と同様に、量研機構放医研以外での実施が難しい内容であるが、評価の結果、コンテンツ全体、講義

内容、講義時間については妥当との意見が多かったことから、認定基準としては、話題提供の講義は研修開催責任者の判断で、甲状腺モニタリング等の体外計測に関する内容の講義とした。バイオアッセイ研修は、現時点では基幹高度被ばく医療支援センターである量研機構放医研のみが開催することになっており、評価の結果、コンテンツ全体、講義内容、講義時間については妥当との意見が多かったことから、話題提供のプルトニウムの内部被ばく事故対応は講義として認定基準とした。

各研修の評価結果に基づき、認定基準を議論し各基準を定めた。

4.6. 受講資格

基礎研修から専門研修、高度専門研修にステップアップする研修体系となっている。令和3年度当初の運用取決めと運用細則では、専門研修の受講資格について、過去歴の取り扱いが曖昧であったため、受講資格について、認定委員会で議論し整理した。専門研修のうち、派遣チーム研修は、修了証の有効期限内にいずれかの専門研修の受講が可能としていたが、派遣チーム研修のみでは、原子力災害医療の基本的事項を網羅できておらず、これのみを繰り返し受講するのでは、派遣時に原子力災害拠点病院での対応の実効性が担保できないことを考慮して、基礎研修、中核人材研修の受講を原則とした。

また、認定委員会としては、令和2年度までに専門研修を受講していても、令和3年度より運用が開始される研修体系での講義内容とは異なることから、基本的な原子力災害医療に関する知識がアップデートされ、習得ができるように、すべての研修は基礎研修の受講を原則とした。

各研修の受講資格は運用取決めに記載している。

4.7. 修了認定基準

令和3年度当初の運用取決めと運用細則では、基礎研修、中核人材研修、派遣チーム研修の修了認定基準のみが定められていたことから、認定委員会でその他の研修の修了基準を議論し、以下の通り取り決めた。中核人材研修以外の専門研修、高度専門研修は講義数が異なるため、それぞれの研修の講義数の8割の聴講とし、実習と机上演習はすべて出席を必須とした。

4.8. 講師資格と更新

令和3年度に策定した運用取決めと運用細則では、令和3年度以前に研修講師を担当していた者が継続して講師ができるように、令和2年度末までの過去の研修として認定されている研修の講師履歴は、講師資格とし、講師経験が講

師の条件となっていた。令和3年度以降に講師養成研修で講師資格を得るため、認定委員会で議論し、基礎研修の講師は、講師経験者あるいは原子力災害医療中核人材研修の修了者、基礎研修以外は、令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験がある者、または令和3年4月以降に中核人材研修修了者、もしくは講師養成研修修了者であることを明記した。さらに、高度専門研修の講師は、研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者を追加した。

【各研修の講師資格の概要】

- 令和3年3月末までに認定委員会が認定した研修の講師履歴を有する者は、全ての研修の講師が可能
- 令和3年3月末までに認定委員会が認定した研修の講師履歴を有しない者は、次の要件により研修の講師が可能
 - 基礎研修の講師；原子力災害医療中核人材研修修了者もしくは講師養成研修修了者
 - 専門研修；講師養成研修修了者
 - 高度専門研修；講師養成研修修了者もしくは研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めたもの

これらの講師資格を継続し、講師資格の更新条件を認定委員会で議論し、整理した。講師資格は登録日あるいは更新日から3年後の年度末とし、認定された講師資格の更新条件は下記のとおりである。

- 講師資格有効年度内に3回以上の講師履歴により更新を認める。有効年度の翌年度のいずれかの日を更新日とする。
- 講師履歴は同一研修につき1回、同一日の研修につき1回とする。

4.9. 標準テキストの承認

テキストについては、研修の評価によるコメントを反映した修正を行い、標準テキストとして認定委員会に提案し、承認された。承認された標準テキストは以下の通りである。

【専門研修】

- ・ ホールボディカウンター研修：線量評価の概念、体外計測法
- ・ 甲状腺簡易測定研修：原子力災害対応、甲状腺簡易検査
- ・ 染色体分析研修：放射線事故災害と被ばく医療、染色体分析による被ばく線量評価

【高度専門研修】

- ・ 講師養成研修：放射線測定器の取扱い実習のポイント、防護装備着脱実習のポイント、医療施設養生実習のポイント、WBC 計測実習のポイント、傷病者汚染検査実習のポイント、除染実習のポイント、被ばく医療実習のポイント、甲状腺簡易測定実習のポイント、 γ 線スペクトロメトリ実習のポイント、内部被ばく線量の計算のポイント
- ・ 体外計測研修：令和 3 年度に量研機構放医研が使用したテキスト
- ・ バイオアッセイ研修：バイオアッセイに基づく内部被ばく線量評価、プルトニウム内部被ばく事故対応
- ・ 高度専門染色体分析研修：高度染色体分析法

体外計測研修のテキストについては、評価のコメントに基づくテキストの修正が完了しなかったため、次年度以降に、高度被ばく医療支援センター連携会議やその部会での審議、承認を経て、標準テキストとして認定することとした。

4.10. 過去歴の取り扱い

令和 2 年度の認定委員会で、令和 3 年 3 月末まで（令和 2 年度）に実施された研修で認定委員会に開催実績が提出された研修については、基礎研修、専門研修（中核人材研修、派遣チーム研修）としてそれぞれ過去研修として認定し、研修の受講歴とすること、修了証は全て令和 6 年 3 月末（令和 5 年度末）とした。令和 3 年度以降に、過去研修としての認定については、過去歴としての申請があった研修について、研修の内容を時間割等から確認し、過去の基礎研修、専門研修（中核人材研修、派遣チーム研修）と同程度の内容であることが確認された研修は、過去歴として取り扱うこととなった。新たに追加された研修は、基礎研修 17 件、中核人材研修 2 件であった。

表 4-15 令和 3 年度に追加された過去研修（基礎研修）

	開催年度	研修名称	実施機関	日程	受講者数
1	H28 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修	原子力安全研究協会	2016/9/9	35
2	H28 年度	佐賀県原子力災害医療専門研修	原子力安全研究協会	2017/2/8	27
3	H29 年度	佐賀県原子力災害医療専門研修	原子力安全研究協会	2018/2/26	54
4	H30 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修①	原子力安全	2019/1/22	28

		(避難退域時検査等)	研究協会		
5	H30 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修② (原子力災害医療協力機関向け)	原子力安全 研究協会	2019/2/17	9
6	H30 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修② (原子力災害医療協力機関向け)	原子力安全 研究協会	2019/2/23	15
7	H30 年度	原子力災害医療専門研修	原子力安全 研究協会	2019/3/1	21
8	R1 年度	原子力災害医療基礎研修① (避難退域時検査・安定ヨウ素剤等)	原子力安全 研究協会	2019/12/24	36
9	R1 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修② (原子力災害医療協力機関向け)	原子力安全 研究協会	2020/2/2	11
10	R1 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修② (原子力災害医療協力機関向け)	原子力安全 研究協会	2020/2/8	8
11	R2 年度	福島災害医療セミナー2020 (オンライン・セミナー)	福島県立 医科大学	2020/10/10	71
12	H29 年度	広島大学原子力災害医療基礎研修	広島大学	2018/1/25	220
13	H29 年度	平成 29 年度 広島大学放射線診療業務従事者研修	広島大学	2017/10/5	105
14	H30 年度	平成 30 年度 広島大学放射線診療業務従事者研修	広島大学	2019/1/31	239
15	R1 年度	令和元年度 広島大学放射線診療業務従事者研修	広島大学	2020/12/10, 2021/1/24, 1/27, 2/12, 2/13, 2/20	334
16	R2 年度	令和 2 年度 広島大学放射線診療業務従事者研修	広島大学	2021/1/25 ~2/26	487
17	R2 年度	広島大学病院 看護実践教育研修センター研修 「原子力災害に必要な基礎知識」	広島大学	2020/6/26, 7/1	38

表 4-16 令和 3 年度に追加された過去研修（中核人材研修）

	開催年度	研修名称	実施機関	日程	受講者数
1	H30 年度	第 17 回 NIRS 被ばく医療セミナー	量研機構	2018/12/12~14	24
2	R1 年度	第 18 回 NIRS 被ばく医療セミナー	量研機構	2019/12/11~13	20

5. 研修認定の実績

5.1. 研修認定の手順

研修の認定申請から研修認定の手順((1)から(6))、修了認定における認定の手順((7)から(12))について示す。なお、(3)と(9)は毎週金曜日に委員へ提供され、審査が開始される。(5)と(11)は審査開始後の次の水曜日が期限となっている。このため、研修申請から研修認定まで1～2週間である。

- (1) 研修申請受理
- (2) 事務局による申請書類の記載項目の確認
- (3) 委員へ研修申請内容の提供、審査開始
- (4) 委員による審査
- (5) 事務局へ結果報告
- (6) 事務局から申請者へ結果通知
- (7) 研修開催後に事務局へ実施報告
- (8) 事務局による申請書類の記載項目の確認
- (9) 委員へ研修申請内容の提供、審査開始
- (10) 委員による審査
- (11) 事務局へ結果報告
- (12) 事務局から申請者へ結果通知

5.2. 令和3年度の研修の認定実績

表 5-1 令和3年度開催の研修

R3年度開催	申請数	認定数	開催数	中止件数	修了者数
基礎研修	33	33	31	2	709
中核人材研修	15	15	13	2	134
派遣チーム研修	11	10	7	4	71
甲状腺簡易測定研修	12	12	10	2	65
WBC研修	2	2	2	0	12
染色体分析研修	3	3	3	0	20
高度専門被ばく医療研修	1	1	1	0	16
講師養成研修	1	1	1	0	42
体外計測研修	2	2	2	0	4
バイオアッセイ研修	2	2	2	0	3
高度専門染色体分析研修	1	1	1	0	6

表 5-2 令和 4 年度開催予定の研修（2022 年 3 月 31 日時点）

R4 年度開催予定	申請数	認定数
基礎研修	2	2
中核人材研修	1	1
派遣チーム研修	0	0
甲状腺簡易測定研修	8	8※
WBC 研修	0	0
染色体分析研修	1	1
高度専門被ばく医療研修	0	0
講師養成研修	0	0
体外計測研修	0	0
バイオアッセイ研修	0	0
高度専門染色体分析研修	0	0

※2022 年 4 月第 1 週に認定した。

6. 各研修の目的、対象者等

研修体系の全ての研修について認定基準、受講資格、修了基準を策定したため、各研修の目的、対象者等の一覧を示す。

6.1. 目的、目標、対象者

表 6-1 基礎研修の目的等

研修名	コード	目的	目標	対象者
原子力災害医療 基礎研修	101	原子力災害に関係する基礎知識の習得	<ul style="list-style-type: none"> 放射線の基礎、影響、防護、汚染検査、除染、安定ヨウ素剤、避難退域時検査、避難と屋内退避について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力災害に関わる関係機関の職員

表 6-2 専門研修の目的等

研修名	コード	目的	目標	対象者
原子力災害医療 中核人材研修	201	被ばく・汚染のある傷病者を医療機関で対応するために必要な知識と技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関での受け入れの準備や初期対応、放射線障害の診断と治療、線量評価、メンタルヘルス、放射線管理要員の役割について理解する。 原子力災害時に被ばく・汚染のある傷病者の初期診療について理解する。 防護装備着脱、放射線測定器の取り扱い、測定方法、除染の技能を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力災害時の医療に携わる医療従事者、医療関係者 基礎研修修了者
原子力災害医療 派遣チーム研修	301	原子力災害医療派遣チームの活動に必要な知識と技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> 原子力災害医療派遣チームの役割、活動内容を理解する。 派遣のための体制、関係機関との連絡等について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力災害医療派遣チーム要員 中核人材研修修了者

研修名	コード	目的	目標	対象者
			<ul style="list-style-type: none"> 派遣に必要な資機材を使用して、被ばく・汚染がある傷病者の対応ができる。 	
ホールボディカウンター研修	302	原子力災害医療拠点病院での体外計測による被ばく線量推定、測定を行う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ホールボディカウンターで測定できる。 ホールボディカウンターでの測定結果により被ばく線量評価ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力災害医療拠点病院の被ばく線量推定に携わる職員 原子力災害医療中核人材研修もしくは令和3年4月以降のホールボディカウンター研修を修了
甲状腺簡易測定研修	303	原子力災害時に甲状腺簡易測定を行う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 甲状腺簡易測定の実施体制、必要な資器材について理解する。 甲状腺簡易測定ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療関係者で甲状腺簡易測定等の甲状腺モニタリングに携わる要員 基礎研修修了者、中核人材研修修了者
染色体分析研修	304	原子力災害、放射線事故時に染色体分析による線量評価に協力、支援できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 二動原体染色体分析について理解する。 二動原体染色体を同定できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高度被ばく医療支援センターの分析経験者又は臨床染色体分析を実施している専門家もしくは被ばく医療に関係する部署に所属する者 基礎研修修了者

表 6-3 高度専門研修の目的等

研修名	コード	目的	目標	対象者
高度専門被ばく医療研修	401	高度専門的対応が必要な患者の診療に必要な専門知識の習得	<ul style="list-style-type: none"> 被ばくした患者の診療ができる。 被ばくした患者の診断、治療、線量評価について適切な助言、支援ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力災害医療派遣チーム研修修了者 高度被ばく医療支援センターの職員

研修名	コード	目的	目標	対象者
講師養成研修	402	専門研修の実習の指導ポイントの習得	<ul style="list-style-type: none"> 放射線測定器の取扱い、防護装備着脱、医療施設の養生、除染、傷病者の汚染検査、WBC 計測、被ばく医療、甲状腺簡易測定、ガンマ線スペクトロメトリ、内部被ばく線量の計算の各実習の指導のポイントを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力災害医療専門研修（中核人材研修、派遣チーム研修、WBC 研修）の修了者で、以後講師として活動する者
体外計測研修	403	原子力災害拠点病院等での WBC、甲状腺モニタによる計測、被ばく線量評価、指導ができる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> WBC、甲状腺モニタによる測定ができる。 WBC、甲状腺モニタによる測定の結果を用いて、被ばく線量評価ができる。 WBC、甲状腺モニタによる測定の指導ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力災害時の各地域での線量評価および甲状腺簡易計測の管理者あるいは責任者 高度被ばく医療支援センターの職員 WBC 研修あるいは甲状腺簡易測定研修修了者
バイオアッセイ研修	404	高度被ばく医療支援センターでのバイオアッセイによる線量評価を実践できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> バイオアッセイができる。 バイオアッセイの結果により線量評価ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高度被ばく医療支援センターまたは原子力事業所等の職員でバイオアッセイの業務に従事する者 基礎研修修了者
高度専門染色体分析研修	405	原子力災害時に染色体分析を行い、高度被ばく医療支援センターに協力できる人材の育成と確保のため、すでに細胞培養から画像取得の技能を有している人材に、画像判定の技能を習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> ギムザ染色法による二動原体分析、FISH 転座分析、細胞質分裂阻害微小核法について理解する。 二動原体、FISH 転座、微小核を判定できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国の染色体分析の専門技術者 染色体分析研修修了者

6.2. 講義、机上演習、実習

原子力災害医療基礎研修、原子力災害医療中核人材研修、原子力災害医療派遣チーム研修以外の研修の講義時間については、本年度の認定委員会で評価、議論したものであり、運用取り決め、運用細則に詳細は記載していないが、原則としてこの講義時間を実施することが望まれる。

表 6-4 基礎研修の講義、机上演習、実習

研修名	講義	講義時間	机上演習	実習	実習の内容
原子力災害医療 基礎研修	原子力防災体制	30分	なし	なし	なし
	放射線の基礎	30分			
	放射線の影響	30分			
	放射線防護	30分			
	汚染検査・除染	30分			
	安定ヨウ素剤	30分			
	避難退域時検査	30分			
	避難と屋内退避の支援	30分			

表 6-5 専門研修の講義、机上演習、実習

研修名	講義	講義時間	机上演習	実習	実習の内容
原子力災害医療 中核人材研修	医療機関の原子力災害対策	30分	次の想定と設問を含む机上演習を実施すること。 1.原子力災害拠点病院での汚染を伴う可能性のある傷病者の受け入れに関し、受け入れ準備、診療手順、被ばく線量評価について検討する。 2.原子力災害時の住民対応に関し、医療機関等での受け入れ準備、多数汚染者への対応について検討する。	放射線測定器の取り扱い	GM サーベイメーター、NaI シンチレーションサーベイメーター等の使用方法
	医療機関での初期対応	30分		防護装備着脱	医療機関で使用する PPE の着脱
	放射線障害の診断と治療	30分		医療施設の養生	医療施設の養生方法
	外部被ばくと内部被ばくの線量評価	40分		除染	蛍光剤等を使用した除染
	原子力災害時のメンタルヘルス	30分		傷病者の汚染検査	診療時の汚染検査
	放射線管理要員の役割	30分		WBC 計測	WBC での計測
	原子力災害事例	30分		被ばく医療	受け入れから外来処置終了までの一連の流れを実施
原子力災害医療 派遣チーム研修	原子力災害医療派遣チーム	30分	次の想定と設問を含む机上演習を実施すること。 1.原子力災害医療派遣チームの待機要請があった場合の対応 2.原子力災害医療派遣チームの派遣要請があった場合の対応	被ばく傷病者対応	除染キットを使用した汚染・被ばくした傷病者対応
	原子力災害医療派遣チームの活動	30分			

研修名	講義	講義時間	机上演習	実習	実習の内容
	原子力災害時のリスクコミュニケーション	30分	3.原子力災害医療派遣チームを医療機関等で受け入れる場合の対応 4.派遣先の原子力災害拠点病院での活動		
ホールボディカウンター研修	線量評価の概念	30分	なし	γ線スペクトロメトリ	γ線スペクトロメトリを用いた測定
	体外計測法	50分		WBC実習	WBCでの計測
	話題提供：公衆の線量評価	30分		内部被ばく線量の計算	演習問題による計算
甲状腺簡易測定研修	原子力災害対応	50分	なし	甲状腺簡易計測	甲状腺中ヨウ素の測定実習
	甲状腺簡易検査	50分			
	話題提供：福島原発事故における住民の初期内部被ばく線量評価の経験	45分			
染色体分析研修	放射線事故災害と被ばく医療	40分	なし	画像診断練習	ギムザ染色法による二動原体分析、FISH法による転座分析
	被ばく線量推定	40分			

表 6-6 高度専門研修の講義、机上演習、実習

研修名	講義	講義時間	机上演習	実習	実習の内容
高度専門被ばく医療研修	高度被ばく医療支援センター連携会議等で調整		なし	なし	なし
講師養成研修	放射線測定器の取り扱い実習のポイント	10分	なし	なし	なし
	防護装備着脱実習のポイント	10分			
	医療施設養生実習のポイント	10分			
	除染実習のポイント	10分			
	傷病者汚染検査実習のポイント	10分			
	WBC計測実習のポイント	20分			
	被ばく医療実習のポイント	20分			
	甲状腺簡易測定実習のポイント	10分			
	γ線スペクトロメトリ実習のポイント	10分			
	内部被ばく線量の計算のポイント	10分			
体外計測研修	ホールボディカウンタを用いた体外計測	50分	なし	γ線スペクトロメトリ	γ線スペクトロメトリを用いた測定の実用篇
	甲状腺モニタを用いた体外計測	50分			
	話題提供：原子力災害時の甲状腺モニタリング	30分			
バイオアッセイ研修	バイオアッセイに基づく内部被ばく線量評価	60分	なし	バイオアッセイ	管理区域内でのバイオアッセイの実習
	話題提供：プルトニウム内部被ばく事故対応	60分		内部被ばく線量評価	演習問題による計算

研修名	講義	講義時間	机上演習	実習	実習の内容
高度専門染色体分析研修	高度染色体分析法	80分	なし	画像診断練習	ギムザ染色法による二動原体分析、FISH法による転座分析、核分裂指数（NDI）の判定、微小核の判定

6.3. 責任者、講師、修了の基準

表 6-7 基礎研修の責任者、講師、修了の基準

研修名	責任者の資格	各講義の講師資格	修了の基準
原子力災害医療基礎研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	以下のいずれかの資格を有すること <ul style="list-style-type: none"> 原子力災害医療に関する研修の講師経験がある者 原子力災害医療中核人材研修修了者であること 	全ての講義を聴講すること

表 6-8 専門研修の責任者、講師、修了の基準

研修名	責任者の資格	各講義の講師資格	修了の基準
原子力災害医療中核人材研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験者 令和3年4月以降の講師養成研修修了者 実習および机上演習の講師は、原子力災害医療中核人材において実習および机上演習の指導経験がある者が最低1名は配置されること 	基幹高度被ばく医療支援センターが作成する問題から、講義項目毎に1問以上、合計20問以上のポストテストを実施し、80%の正答率であること。
原子力災害医療派遣チーム研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験者 令和3年4月以降の講師養成研修修了者 	全ての講義の聴講、机上演習、実習に参加すること

研修名	責任者の資格	各講義の講師資格	修了の基準
ホールボディカウンタ研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験者 令和3年4月以降の講師養成研修修了者 	(1) 全講義数の8割以上の講義を聴講すること。 (2) すべての実習を受講すること。
甲状腺簡易測定研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験者 令和3年4月以降の講師養成研修修了者 	(1) 全講義数の8割以上の講義を聴講すること。 (2) すべての実習を受講すること。
染色体分析研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験者 令和3年4月以降の講師養成研修修了者 	(1) 全講義数の8割以上の講義を聴講すること。 (2) すべての実習を受講すること。

表 6-9 高度専門の責任者、講師、修了の基準

研修名	責任者の資格	各講義の講師資格	修了の基準
高度専門被ばく医療研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月以降に講師養成研修修了者 研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者" 	全ての講義の聴講、机上演習、実習に参加すること
講師養成研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月以降に講師養成研修修了者 研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者 	(1) 全講義数の8割以上の講義を聴講すること。
体外計測研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月以降に講師養成研修修了者 研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者 	(1) 全講義数の8割以上の講義を聴講すること。 (2) すべての実習を受講すること。
バイオアッセイ研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	<ul style="list-style-type: none"> 研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者 	(1) 全講義数の8割以上の講義を聴講すること。 (2) すべての実習を受講すること。
高度専門染色体分析研修	原子力災害医療に関する研修の講師経験があること	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月以降に講師養成研修修了者 研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者 	(1) 全講義数の8割以上の講義を聴講すること。 (2) すべての実習を受講すること。

7. 研修制度の課題

認定委員会は、令和3年度、線量評価に関連する専門研修と高度専門研修の認定基準の作成のため、研修体系²に掲げていた研修の評価を最優先で行い、研修の認定作業を同時に実施した。そのため、下記の課題について十分に議論することが出来なかった。これらの課題については、令和4年度から高度被ばく医療支援センター連携会議に新たに設置される研修部会で引き続き議論することを期待する。

7.1. R5年度有効期限切れとなる受講者への対応

これまでの研修認定委員会での議論で、被ばく医療は非常に稀な事象であり、日常の業務で実践することはないことから、3年ほどで知識、技能を再確認、再取得することが望まれることから、有効期限を3年と定めた。現行の制度は、修了証の有効期限については、平成26年度から令和2年度までの受講については、一律令和5年度末までの期限としている。令和5年度末で有効期限を迎える人数は、表7-1のとおりである。

表7-1 平成26年度から令和2年度までの受講者数

研修	受講者数
原子力災害医療基礎研修	15,048
原子力災害医療中核人材研修	601
NIRS 被ばく医療セミナー	241
原子力災害医療派遣チーム研修	884

このうち、中核人材研修修了者で令和3年度に中核人材研修を受講したのは、7名、派遣チーム研修を受講したのは4名である。また、派遣チーム研修修了者で基礎研修を受講したのは16名、中核人材研修を受講したのは5名である（2021年12月1日時点）。中核人材研修の受講は、原子力災害拠点病院の施設要件であることから、資格保持が必須であるが、この中核人材研修の有効期限と再受講の必要性について、関係者に情報が浸透していない可能性が考えられる。あるいは、令和5年度に受講することを計画している可能性もあ

² 放射線対策委託費（放射線安全規制研究戦略的推進事業費）放射線安全規制研究推進事業「包括的被ばく医療の体制構築に関する調査研究」において提案され、令和3年3月末までに認定委員会で定めた。

る。このため、令和 5 年度の中核人材研修は、年間 600 名程の定員の確保が必要であるが、現時点で 5 つの高度被ばく医療支援センターで開催される中核人材研修は 320 名（1 回 20 名、16 回開催）程度の定員である。また、4 日間の中核人材研修の受講は、所属での業務の調整等の負担が大きいことから、短時間での効率的な研修の要望がある。令和 2 年度までの中核人材研修修了者は、基礎研修の項目の受講がない場合もあり、基礎研修も法令や指針の改正などがあることから、これらの知識の再履修が望まれる。これらの状況を踏まえ、半日間のオンライン研修で実施でき、基本的な項目、原子力災害に関する改正された項目について知識を得られる基礎研修の受講で、中核人材研修の修了証の有効期限を延長することを認定委員会で議論した。しかしながら、有効期限も令和 5 年度末であることから、今年度は結論を出せなかった。

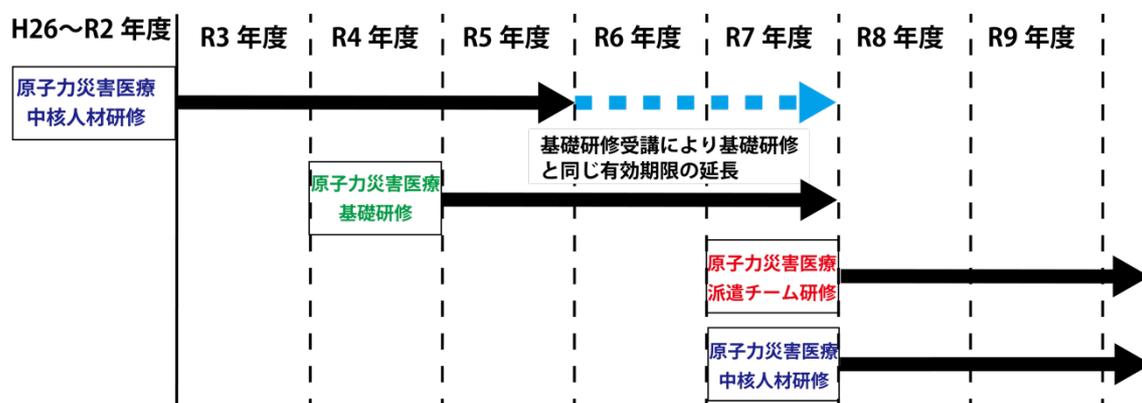


図 7-1 中核人材研修 有効期限延長の概念

令和 4 年度に基礎研修を受講することで、中核人材研修の有効期限が令和 7 年度末まで延長される。

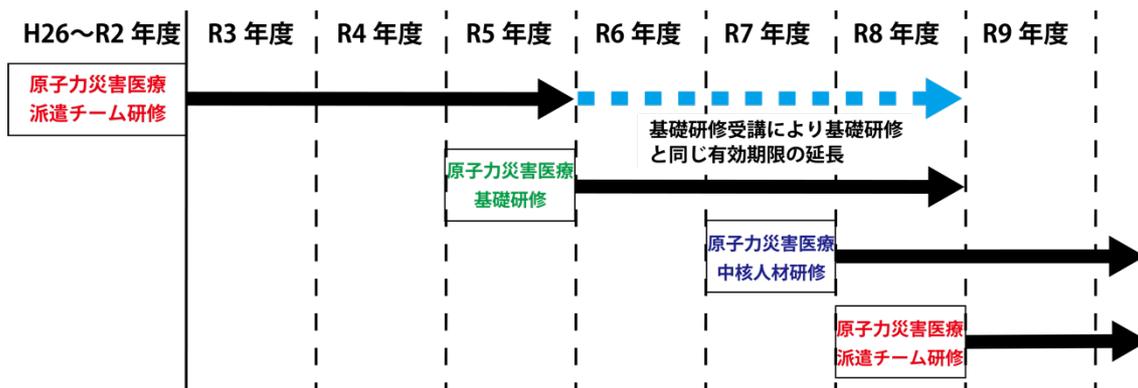


図 7-2 派遣チーム研修 有効期限延長の概念

令和 5 年度に基礎研修を受講することで、派遣チーム研修の有効期限が令和 8 年度末まで延長される。この間に中核人材研修、派遣チーム研修を受講することで、資格は維持される。

7.2. 基礎研修の e-Learning 化、オンデマンド研修の検討

基礎研修は全て座学による講義であり、e-learning 化、オンデマンド研修に移行するのは他の研修に比べて容易である。さらに、基礎研修は原子力災害医療に関する全ての研修の基礎知識の習得が目的であり、より多くの関係者が効率的に受講することが望まれる。オンデマンド研修の実施に際しては、受講の確認、研修受講後の知識習得の確認といった課題がある。これらを解決できるシステムの構築と、e-learning の教材作成が必要となる。

7.3. フォローアップ（技能維持）研修の検討

前述したとおり、中核人材研修については、有効期限内での再受講が原子力災害拠点病院には必要であり、今後再履修者が増加することが見込まれるが、受講期間の短縮や受講方法の効率化について検討の余地がある。まずは、原子力災害拠点病院での原子力災害時の医療において必要な知識と技能のうち、技能維持のための研修で必要な項目を整理する必要がある。これは原子力災害拠点病院の要望だけでなく、これまでの原子力災害で医療関係者に必要とされた知識や技能についても経験に基づき、検討されるべきである。

2011 年の東日本大震災での医療チームの支援では、福島県の支援について、放射線被ばく状況下での活動に対する準備不足のため、支援と派遣が出来なかったということもあった。原子力災害医療派遣チームの研修についても、このようなことを繰り返さないためにも、実効性のあるチームを育成するための研修が実施されるべきである。そのためには、現在、派遣チーム研修は、基礎研修と中核人材研修の修了が必須であるが、これらは原子力災害拠点病院に派遣

された際には必要な知識と技能であり、より多くの関係者が受講できる環境と効率化を検討、考慮する必要がある。

以上により、修了証の有効期限の更新のための研修として、中核人材研修と派遣チーム研修については、研修受講の容易性を検討するばかりでなく、原子力災害時の医療の実効性向上に資する研修となるように検討が必要である。

7.4. 甲状腺簡易測定研修；マニュアルに適応した内容に変更

甲状腺簡易測定研修は、甲状腺モニタリングの体制やマニュアルが策定される以前の令和2年度より、量研機構放医研で研修内容を検討した上で実施されていた。令和3年度は量研機構放医研以外の高度被ばく医療支援センターでも開催された。しかし、現在、甲状腺モニタリングについて、原子力災害対策指針の改正、甲状腺モニタリングの実施体制のためのマニュアル作成が行われており、これらの内容を反映し、マニュアルに適応した内容や原子力災害拠点病院等の甲状腺モニタリングでの役割に応じた研修内容に変更する必要がある。これらは、指針の改正、マニュアルの策定後に高度被ばく医療支援センター連携会議や新設される研修部会で検討、審議されることを期待する。

7.5. 医療関係者以外の研修受講の門戸を拡張する可能性

東日本大震災後の対応でもそうであったように、甲状腺簡易測定は医療関係者以外の協力が不可欠であり、体外計測、バイオアッセイ、染色体分析も医療関係者ではなく、それぞれの分野の専門家や技術者の協力が不可欠である。また、医学部や看護学部等では、原子力災害、被ばく医療に関する講義は非常に限られており、これらの医療や研修に接する機会は少ない。このため、原子力災害医療や被ばく医療を志す若手は非常に少ない。また、原子力災害や被ばく医療に関連する放射線防護や放射線管理の分野でも、若手人材の減少と確保が課題として挙げられている中で、医療関係者に限らず、将来的に原子力災害医療や被ばく医療に放射線防護、線量評価、放射線計測、放射線管理等で関わる人材を確保するために、学習意欲のある学生等の若手に原子力災害時の医療や被ばく医療に関する研修で、将来的な関連分野での活躍について示唆することは、人材の裾野を広げるということに資すると思慮する。実効性確保のための研修ではあるが、認定委員会としても、長期的な視野で、研修受講の門戸を拡張する可能性も検討すべきであると思われる。

7.6. 実習・机上演習の指導要領の作成

中核人材研修、派遣チーム研修の実習及び机上演習は、細則により実習の項目、机上演習の想定と設問項目については規定されているものの、詳細な実施方法は開催者に委ねられている。研修の認定申請時に資料を提出することになっており、実施内容については認定委員会で把握できている。しかし、実施要領は統一されておらず、開催者毎に指導内容や提示内容が異なっている項目もある。特に、ゾーニングについては、開催者毎に設定の方法、PPEの選択、汚染検査の実施場所などが統一されていないことから、受講者の混乱を招くこと、実際の設定で矛盾や不都合が生じる可能性が、令和3年度第3回高度被ばく医療支援センター連携会議医療部会で示されている。このことから、実習と机上演習の指導要領の作成が望まれる。

7.7. その他

今後、東日本大震災での教訓を反映した内容が研修プログラムに反映されるべきである。以下に項目を挙げる。

・リスクコミュニケーション対策

すべての被ばく医療活動における被災者とのかかわりにおいて、正しくリスクコミュニケーションを理解し、東日本大震災での経験のうち継承すべき内容を精査し研修プログラムとして確立する必要がある。

・災害時要支援者対策

東日本大震災では、高齢者・障害者の避難による被ばくによる健康リスクが非避難者に比べ、増加したことが報告されている。原子力災害に特徴的な事項であり、行政が把握しておくべきことは言うまでもないが、被ばく医療に携わる医療関係者に対策の重要性を継承していく必要がある。今後、研修プログラムの一部にこの内容が含まれることを希望する。

8. 運用取決め等

8.1. 設置規程

被ばく医療研修認定委員会の設置について

令和3年 4月 1日
令03放(規則)第5号

(目的)

第1条 この規則は、原子力規制庁原子力災害対策事業費補助金（原子力災害等医療実効性確保事業）により実施する原子力災害医療研修制度に資するため、放射線医学研究所（以下、「放医研」という。）に、被ばく医療研修認定委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(所掌業務)

第2条 委員会は、次の各号に定める事項について審議することを任務とする。

- (1) 研修及び研修コース認定の基準を定めること
- (2) 受講者の研修修了認定の基準を定めること
- (3) 研修を行う講師の資格を定めること
- (4) 研修主催者から申請される研修を認定すること
- (5) 受講者の研修修了を認定すること
- (6) 標準テキストを承認すること
- (7) その他委員長が必要と認める事項

(構成)

第3条 委員会は、放医研所長（以下「所長」という。）が指名する機構の役員及び所長が委嘱する機構外有識者をもって構成する。

2 委員長及び委員長代理は、機構の所長が指名する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。ただし、委員長に事故があるときは、委員長代理がこれにあたる。

(任期)

第4条 委員長及び委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(開催)

第5条 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

2 委員会が審議しようとする案件について利害関係を有する委員長又は委員は、当該審

議に参加することができない。ただし、委員長が利害関係を有する案件を審議する場合は、第3条第3項の定めに従い、委員長代理が会務を掌理する。

3 委員会は、委員長のほか、委員総数の過半数の出席をもって成立とする。

4 委員会の議事は出席者の総意をもって決する。

5 委員会は、委員長が必要と認める場合は書面により開催することができる。

6 委員会は非公開とする。

(守秘義務)

第6条 委員長、委員長代理、委員及び委員会に携わる者は、職務上知り得た情報を正当な理由なく他に漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(事務局)

第7条 委員会の事務は、放医研被ばく医療部が行う。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会に係る必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

第1条 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

(規則の廃止)

第2条 被ばく医療研修認定委員会の設置について(令01被(規則)第1号)は、廃止する。

8.2. 令和4年1月1日施行

被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め

(目的)

第1条 この取決めは、「被ばく医療研修認定委員会の設置について(令和3年4月1日令03放(規則)第5号)」第8条に基づき、被ばく医療研修認定委員会(以下、「認定委員会」という。)の業務の運用を定めることを目的とする。

第2条 認定委員会は、全て非公開とする。

(研修の認定基準)

第3条 認定委員会は、次の各号に掲げる研修について別に定める認定基準を定める。

- (1) 基礎研修(原子力災害医療基礎研修)
- (2) 専門研修(原子力災害医療中核人材研修、原子力災害医療派遣チーム研修、ホールボディカウンター研修、甲状腺簡易測定研修、染色体分析研修)
- (3) 高度専門研修(高度専門被ばく医療研修、講師養成研修、体外計測研修、バイオアッセイ研修、高度専門染色体分析研修)

(研修開催機関の申請資格)

第4条 基礎研修として認定を受けようとする研修の開催機関は、次の各号に掲げる全てに該当しなければならない。

- (1) 原子力災害対策重点区域の道府県もしくはこれら道府県から研修開催業務を委託されたもの、原子力災害拠点病院、大学または高度被ばく医療支援センター。
- (2) 研修開催責任者を指定すること。
- (3) 受講料は徴取しないこと。
- (4) 研修開催に係る資料を保管し、認定委員会の求めに応じていつでも提出できること。

第5条 専門研修として認定を受けようとする研修の開催機関は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。

- (1) 原子力災害医療中核人材研修、ホールボディカウンター研修、甲状腺簡易測定研修を開催する機関は、高度被ばく医療支援センターであること。
- (2) 原子力災害医療派遣チーム研修を開催する研修機関は、原子力災害医療・総合支援センターもしくは基幹高度被ばく医療支援センターであること。

2 前項に加え、専門研修として認定を受けようとする研修の開催機関は、次の各号に

掲げる全てに該当しなければならない。

- (1) 研修開催責任者を指定すること。
- (2) 研修開催に係る資料を保管し、認定委員会の求めに応じていつでも提出できること。

第6条 高度専門研修として認定を受けようとする研修の開催機関は、次の各号に掲げる全てに該当しなければならない。

- (1) 基幹高度被ばく医療支援センターであること。
- (2) 研修開催責任者を指定すること。
- (3) 研修開催に係る資料を保管し、認定委員会の求めに応じていつでも提出できること

(研修の認定手続き)

第7条 研修の認定を受けようとする開催機関は、研修毎に次の各号に掲げる書類を、認定委員会に申請しなければならない。詳細は別に定める。

- (1) 申請書
- (2) 研修プログラムおよび実習、机上演習の内容が分かる資料
- (3) 講師リスト
- (4) 認定委員会が承認する標準テキスト以外の追加テキストを使用する場合は当該追加テキスト
- (5) オンラインで研修を実施する場合、オンラインの形式及び講義ごとの受講者の出欠確認方法を申請書に追記すること。オンライン研修としてはライブ配信による研修のみを認定する。

2 認定委員会は、前項の申請を前4条に照らし認定し、研修開催機関に対し別に定める研修認定結果通知書を交付する。

(研修の認定申請期日)

第8条 認定委員会は、研修の認定を原則として年3回実施し、研修認定申請の期日は、毎年度当初に公示する。ただし、研修開催機関の研修準備の都合上、不定期に申請を受け付けることを妨げない。

(受講者の募集)

第9条 研修開催機関は、認定委員会による研修の認定日以降に、被ばく医療研修管理システム（以下、「管理システム」という。）に研修情報を登録し、受講者の募集を開始する。

(研修受講の応募)

第10条 研修の受講を申し込む者は、管理システムにユーザー登録し、開催予定研修情報にアクセスし、研修受講の申し込みを行う。

(研修の受講資格)

第11条 認定委員会が認定する研修を受講する者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 原子力災害医療基礎研修を受講する者は、原子力災害医療、被ばく医療に関連する業務等を行う者とする。
- (2) 専門研修のうち、原子力災害医療中核人材研修を受講する者は、原子力災害医療基礎研修もしくは令和3年4月以降の原子力災害医療中核人材研修を修了し、有効期限内の修了証を有する者とする。
- (3) 専門研修のうち、原子力災害医療派遣チーム研修を受講する者は、原子力災害医療中核人材研修もしくは令和3年4月以降の原子力災害医療派遣チーム研修を修了し、有効期限内の修了証を有する者とする。
- (4) 専門研修のうち、ホールボディカウンター研修を受講する者は、原子力災害医療中核人材研修もしくは令和3年4月以降のホールボディカウンター研修を終了し、有効期限内の修了証を有する者とする。
- (5) 専門研修のうち、甲状腺簡易測定研修を受講する者は、原子力災害医療基礎研修もしくは原子力災害医療中核人材研修を修了し、有効期限内の修了証を有する者とする。
- (6) 染色体分析研修を受講する者は、染色体分析を1ヶ月以上学んだ高度被ばく医療支援センターの分析経験者又は臨床染色体分析を実施している専門家もしくは被ばく医療に関係する部署に所属する者で、かつ原子力災害医療基礎研修を修了し、有効期限内の修了証を有する者とする。
- (7) 高度専門研修のうち、高度専門被ばく医療研修を受講する者は原子力災害医療派遣チーム研修もしくは高度専門被ばく医療研修を、体外計測研修を受講する者はホールボディカウンター研修もしくは甲状腺簡易測定研修を、講師養成研修を受講する者は原子力災害医療派遣チーム研修、原子力災害医療中核人材研修、ホールボディカウンター研修のいずれかを、高度専門染色体分析研修を受講する者は染色体分析研修を、それぞれ修了し、有効期限内の修了証を有する者および講師登録している者とする。

(受講者の決定)

第12条 研修開催機関は、前条の資格を満たす受講申込者のうちから受講者を決定し、管理システムにて申し込み状況を「受講決定」または「受講不可」へステータス変更を行う。

(研修の修了手続き)

第13条 研修実施後、研修開催機関は別に定める修了基準を満たす受講者情報を含む実施報告を認定委員会に申請する。

2 認定委員会は、前項の申請に基づき研修修了を認定し、研修開催機関に対し別に定める修了認定結果通知書を交付する。

3 研修開催機関は、前項の通知に従い、管理システムにて「受講決定」者を「受講修了」または「受講未了」へステータス変更し、「受講修了」者に修了証番号を割り当てた上で、「研修完了」の登録を行う。

4 研修実施機関が研修を途中で中止あるいは中断した場合は、研修開催責任者は、認定委員会に報告し、実施した講義等の項目を各受講者の「原子力災害医療に関する受講履歴欄」に終了した講義等入力し、各受講者に受講証明書を発行する。

5 研修開催責任者が研修を受講者が途中で中断することを許可した場合は、認定委員会に報告し、実施した講義等の項目を受講者の「原子力災害医療に関する受講履歴欄」に終了した講義等入力し、受講者に受講証明書を発行する。

6 研修を途中で中断した場合には、中断した研修開始日から概ね翌年度末までに再開し、終了すること。

(修了証書の発行)

第14条 前条による登録の後管理システムにて、研修開催機関は別に定める様式の修了証書を印刷することができ、また研修修了者はその写しを印刷することができる。

(研修修了者の認定期間)

第15条 研修修了者の認定期間は修了日の3年後の年度末とし、3年毎に申請により認定を更新する。資格の更新の条件および手続きは、別に定める。

(講師資格)

第16条 令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験がある者、または令和3年4月以降に講師養成研修修了者は講師として認定し、認定期間は3年とする。資格の更新の条件及び手続きは、別に定める。

(規則の改正)

第17条 この取決めは、認定委員会委員長が認定委員会に諮って改正することができる。

[附則]

(施行期日等)

1 この取決めは令和3年3月2日から施行し、令和3年4月1日以降に開催される研修に適用する。

2 この改正取決めは令和4年1月1日から施行し、令和4年1月1日以降に開催される研修に適用する。

(研修情報登録開始日の例外)

3 第9条の規定に限らず令和2年度内に募集を開始する基礎研修に関しては事務局が申請を受け付けた日以後に管理システムに研修情報を登録し、受講者の募集を開始してもよい。

(認定研修修了者の認定期間の例外)

4 第15条の規定に限らず、平成26年度以降令和2年度までに開催された研修（基礎、中核人材、派遣チーム）の修了者は、一律認定期間を令和5年度末までとする。

被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め(細則)

第1条 この細則は、「被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め」の施行について必要事項を定める。

第2条 研修開催機関が提出する認定申請の書類は様式1～2のとおりとする。

(研修認定基準)

第3条 基礎研修における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を各々30分以上講義すること。
 1. 原子力防災体制
 2. 放射線の基礎
 3. 放射線の影響
 4. 放射線防護
 5. 汚染検査・除染
 6. 安定ヨウ素剤
 7. 避難退域時検査
 8. 避難と屋内退避の支援
- (2) 前号(1)に掲げる講義は、被ばく医療研修認定委員会（以下、「認定委員会」という。）が承認する標準テキストを用いること。
- (3) 標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (4) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。また、研修開催場所で受講者の受講を確認すること。オンラインの場合は講義ごとに受講者の出欠を確認すること。
- (5) 各講義の講師は、令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験がある者、または令和3年4月以降に原子力災害医療中核人材研修修了者もしくは講師養成研修修了者であること。

第4条 専門研修（原子力災害医療中核人材研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を各々30分（4.については40分）以上講義すること。
 1. 医療機関の原子力災害対策
 2. 医療機関での初期対応
 3. 放射線障害の診断と治療
 4. 外部被ばくと内部被ばくの線量評価

5. 原子力災害時のメンタルヘルス
 6. 放射線管理要員の役割
 7. 原子力災害時例
- (2) 次のすべての項目を実習すること。
1. 放射線測定器の取り扱い
 2. ホールボディカウンターによる計測
 3. 防護装備着脱
 4. 医療施設の養生
 5. 除染（蛍光剤を使用しても良い）
 6. 傷病者の汚染検査
 7. 被ばく・汚染傷病者対応
- (3) 次の想定と設問を含む机上演習を実施すること。
1. 原子力災害拠点病院での汚染を伴う可能性のある傷病者の受入れに関し、受け入れ準備、診療手順、被ばく線量評価について検討する。
 2. 原子力災害時の住民対応に関し、医療機関等での受け入れ準備、多数汚染者への対応について検討する。
- (4) 前号(1)に掲げる講義は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。
- (5) 標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (6) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (7) 講義は対面方式、オンライン形式のいずれかで実施することができる。オンライン形式の場合はライブ方式とし、講師と受講者の双方向の質疑応答が可能であること、講義ごとに受講者の出欠を確認すること。
- (8) 各講義の講師は、令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験があること、または令和3年4月以降に講師養成研修修了者であること。
- (9) 実習および机上演習の講師は、令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療中核人材研修において実習および机上演習の指導経験がある者が最低1名は配置されること、または令和3年4月以降に講師養成研修修了者であること。
- (10) 基幹高度被ばく医療支援センターが作成する問題から、講義項目毎に1問以上、合計20問以上のポストテストを実施すること。

第5条 専門研修（原子力災害医療派遣チーム研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を各々30分以上講義すること。

1. 原子力災害医療派遣チーム
 2. 原子力災害医療派遣チームの活動
 3. 原子力災害時のリスクコミュニケーション
- (2) 次のすべての項目を実習すること。
1. 除染キットを使用した汚染・被ばくした傷病者対応
- (3) 次の想定と設問を含む机上演習を実施すること。
1. 原子力災害時に原子力災害医療派遣チームの待機要請があった場合の対応
 2. 原子力災害時に原子力災害医療派遣チームの派遣要請があった場合の対応
 3. 原子力災害医療派遣チームを医療機関等で受け入れる場合の対応
 4. 派遣先の原子力災害拠点病院での活動
- (4) 前号(1)に掲げる講義は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。
- (5) 標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (6) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (7) 講義は対面方式、オンライン形式のいずれかで実施することができる。オンライン形式の場合はライブ方式とし、講師と受講者の双方の質疑応答が可能であること、講義ごとに受講者の出欠を確認すること。
- (8) 各講義の講師は、令和 3 年絵月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験があること、または令和 3 年 4 月以降に講師養成研修修了者であること。
- (9) 実習および机上演習の講師は、令和 3 年 3 月末までに認定委員会が認める原子力災害医療中核人材研修において実習および机上演習の指導経験がある者が最低 1 名は配置されること、または令和 3 年 4 月以降に講師養成研修修了者であること。

(修了基準)

第 6 条 基礎研修の修了基準を次の各号の通り定める。

- (1) すべての講義を聴講すること。
- (2) 講義の聴講が複数の研修にまたがった場合は、受講者は研修開催機関から聴講した講義の参加証明を受領すること。

第 7 条 専門研修（原子力災害医療中核人材研修）の修了基準を次の各号の通り定める。

- (1) 5つ以上の講義およびすべての実習と机上演習を受講すること。
- (2) ポストテストの正答率が80%以上であること。

第8条 専門研修（原子力災害医療派遣チーム研修）の修了基準を次の各号の通り定める。

- (1) 2つ以上の講義およびすべての実習と机上演習を受講すること。

（研修認定結果通知）

第9条 研修認定時に認定委員会が開催機関に交付する研修認定結果通知書は様式3のとおりとする。

（実施報告）

第10条 研修実施後に開催機関が認定委員会に提出する実施報告書は様式4のとおりとする。

（修了認定結果通知）

第11条 認定委員会が開催機関に交付する修了認定結果通知書は様式5のとおりとする。

（修了証書）

第12条 修了証書は様式6のとおりとする。

（標準テキスト）

第13条 認定委員会が承認する標準テキストは次の各号に定めたものとする。

- (1) 放射線安全規制研究戦略的推進事業費（包括的被ばく医療の体制構築に関する調査研究）事業での成果物
- (2) 前号の標準テキストを原子力規制庁の委託事業等で修正、改訂したもの
- (3) 研修開催機関が新規に作成し、別に定める標準テキストワーキンググループの審査を経て、認定委員会が承認したもの

（研修修了者の認定資格の更新の条件）

第14条 修了証書の有効期限は発行日の3年後の年度末とし、研修の更新の手続きを次の各号のとおり定める。

- (1) 修了証の有効期限内に、受講資格のある研修を受講すること。
- (2) 講師養成研修修了者は、研修修了日を講師資格登録日とする。

(講師資格の更新)

第15条 講師資格は登録日あるいは更新日の3年後の年度末とし、更新の手続きを次の各号の通り定める。

- (1) 講師資格有効年度内に3回以上の講師履歴により更新を認める。有効年度の翌年度のいずれかの日を更新日とする。
- (2) 講師履歴は同一研修につき1回、同一日の研修につき1回とする。
- (3) 令和3年3月末までに講師履歴がある者は、令和5年度末まで講師資格有効とする。

(規則の改正)

第16条 この細則は、認定委員会委員長が認定委員会に諮って改正することができる。

[附則]

(施行期日)

- 1 この細則は令和2年12月25日から施行し、令和3年4月1日以降に開催される研修に適用する。
- 2 この改正細則は令和4年1月1日から施行する。

8.3. 令和4年4月1日施行

被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め

(目的)

第1条 この取決めは、「被ばく医療研修認定委員会の設置について(令和3年4月1日令03放(規則)第5号)」第8条に基づき、被ばく医療研修認定委員会(以下、「認定委員会」という。)の業務の運用を定めることを目的とする。

第2条 認定委員会は、全て非公開とする。

(研修の認定基準)

第3条 認定委員会は、次の各号に掲げる研修について別に定める認定基準を定める。

- (1) 基礎研修(原子力災害医療基礎研修)
- (2) 専門研修(原子力災害医療中核人材研修、原子力災害医療派遣チーム研修、ホールボディカウンター研修、甲状腺簡易測定研修、染色体分析研修)
- (3) 高度専門研修(高度専門被ばく医療研修、講師養成研修、体外計測研修、バイオアッセイ研修、高度専門染色体分析研修)

(研修開催機関の申請資格)

第4条 基礎研修として認定を受けようとする研修の開催機関は、次の各号に掲げる全てに該当しなければならない。

- (1) 原子力災害対策重点区域の道府県もしくはこれら道府県から研修開催業務を委託されたもの、原子力災害拠点病院、大学または高度被ばく医療支援センター。
- (2) 研修開催責任者を指定すること。
- (3) 受講料は徴取しないこと。
- (4) 研修開催に係る資料を保管し、認定委員会の求めに応じていつでも提出できること。

第5条 専門研修として認定を受けようとする研修の開催機関は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。

- (1) 原子力災害医療中核人材研修、ホールボディカウンター研修、甲状腺簡易測定研修を開催する機関は、高度被ばく医療支援センターであること。
- (2) 原子力災害医療派遣チーム研修を開催する研修機関は、原子力災害医療・総合支援センターもしくは基幹高度被ばく医療支援センターであること。

2 前項に加え、専門研修として認定を受けようとする研修の開催機関は、次の各号に

掲げる全てに該当しなければならない。

- (1) 研修開催責任者を指定すること。
- (2) 研修開催に係る資料を保管し、認定委員会の求めに応じていつでも提出できること。

第6条 高度専門研修として認定を受けようとする研修の開催機関は、次の各号に掲げる全てに該当しなければならない。

- (1) 基幹高度被ばく医療支援センターであること。
- (2) 研修開催責任者を指定すること。
- (3) 研修開催に係る資料を保管し、認定委員会の求めに応じていつでも提出できること

(研修の認定手続き)

第7条 研修の認定を受けようとする開催機関は、研修毎に次の各号に掲げる書類を、認定委員会に申請しなければならない。詳細は別に定める。

- (1) 申請書
- (2) 研修プログラムおよび実習、机上演習の内容が分かる資料
- (3) 講師リスト
- (4) 認定委員会が承認する標準テキスト以外の追加テキストを使用する場合は当該追加テキスト
- (5) オンラインで研修を実施する場合、オンラインの形式及び講義ごとの受講者の出欠確認方法を申請書に追記すること。オンライン研修としてはライブ配信による研修のみを認定する。

2 認定委員会は、前項の申請を前4条に照らし認定し、研修開催機関に対し別に定める研修認定結果通知書を交付する。

(研修の認定申請期日)

第8条 認定委員会は、研修の認定を原則として年3回実施し、研修認定申請の期日は、毎年度当初に公示する。ただし、研修開催機関の研修準備の都合上、不定期に申請を受け付けることを妨げない。

(受講者の募集)

第9条 研修開催機関は、認定委員会による研修の認定日以降に、被ばく医療研修管理システム（以下、「管理システム」という。）に研修情報を登録し、受講者の募集を開始する。

(研修受講の応募)

第10条 研修の受講を申し込む者は、管理システムにユーザー登録し、開催予定研修情報にアクセスし、研修受講の申し込みを行う。

(研修の受講資格)

第11条 認定委員会が認定する研修を受講する者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 原子力災害医療基礎研修を受講する者は、原子力災害医療、被ばく医療に関連する業務等を行う者とする。
- (2) 専門研修のうち、原子力災害医療中核人材研修を受講する者は、原子力災害医療基礎研修もしくは令和3年4月以降の原子力災害医療中核人材研修を修了し、有効期限内の修了証を有する者とする。
- (3) 専門研修のうち、原子力災害医療派遣チーム研修を受講する者は、原子力災害医療中核人材研修もしくは令和3年4月以降の原子力災害医療派遣チーム研修を修了し、有効期限内の修了証を有する者とする。
- (4) 専門研修のうち、ホールボディカウンター研修を受講する者は、原子力災害医療中核人材研修もしくは令和3年4月以降のホールボディカウンター研修を修了し、有効期限内の修了証を有する者とする。
- (5) 専門研修のうち、甲状腺簡易測定研修を受講する者は、原子力災害医療基礎研修もしくは原子力災害医療中核人材研修を修了し有効期限内の修了証を有する者とする。
- (6) 染色体分析研修を受講する者は、染色体分析を1ヶ月以上学んだ高度被ばく医療支援センターの分析経験者又は臨床染色体分析を実施している専門家もしくは被ばく医療に関係する部署に所属する者で、かつ原子力災害医療基礎研修を修了し、有効期限内の修了証を有する者とする。
- (7) 高度専門研修のうち、高度専門被ばく医療研修を受講する者は原子力災害医療派遣チーム研修もしくは高度専門被ばく医療研修を修了し有効期限内の修了証を有する者および講師登録している者とする。
- (8) 高度専門研修のうち、体外計測研修を受講する者はホールボディカウンター研修もしくは甲状腺簡易測定研修を修了し有効期限内の修了証を有する者および講師登録している者とする。
- (9) 高度専門研修のうち、講師養成研修を受講する者は原子力災害医療派遣チーム研修、原子力災害医療中核人材研修、ホールボディカウンター研修のいずれかを修了し有効期限内の修了証を有する者および講師登録している者とする。
- (10) 高度専門研修のうち、高度専門染色体分析研修を受講する者は染色体分析研修を修了し有効期限内の修了証を有する者および講師登録している者と

する。

(受講者の決定)

第12条 研修開催機関は、前条の資格を満たす受講申込者のうちから受講者を決定し、管理システムにて申し込み状況を「受講決定」または「受講不可」へステータス変更を行う。

(研修の修了手続き)

第13条 研修実施後、研修開催機関は別に定める修了基準を満たす受講者情報を含む実施報告を認定委員会に申請する。

2 認定委員会は、前項の申請に基づき研修修了を認定し、研修開催機関に対し別に定める修了認定結果通知書を交付する。

3 研修開催機関は、前項の通知に従い、管理システムにて「受講決定」者を「受講修了」または「受講未了」へステータス変更し、「受講修了」者に修了証番号を割り当てた上で、「研修完了」の登録を行う。

4 研修実施機関が研修を途中で中止あるいは中断した場合は、研修開催責任者は、認定委員会に報告し、実施した講義等の項目を各受講者の「原子力災害医療に関する受講履歴欄」に終了した講義等入力し、各受講者に受講証明書を発行する。

5 研修開催責任者が研修を受講者が途中で中断することを許可した場合は、認定委員会に報告し、実施した講義等の項目を受講者の「原子力災害医療に関する受講履歴欄」に終了した講義等入力し、受講者に受講証明書を発行する。

6 研修を途中で中断した場合には、中断した研修開始日から概ね翌年度末までに再開し、終了すること。

(修了証書の発行)

第14条 前条による登録の後管理システムにて、研修開催機関は別に定める様式の修了証書を印刷することができ、また研修修了者はその写しを印刷することができる。

(研修修了者の認定期間)

第15条 研修修了者の認定期間は修了日の3年後の年度末とし、3年毎に申請により認定を更新する。資格の更新の条件および手続きは、別に定める。

(講師資格)

第16条 令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験がある者、または令和3年4月以降に講師養成研修修了者は講師として認

定し、認定期間は3年とする。資格の更新の条件及び手続きは、別に定める。

(規則の改正)

第17条 この取決めは、認定委員会委員長が認定委員会に諮って改正することができる。

[附則]

(施行期日等)

- 1 この取決めは令和3年3月2日から施行し、令和3年4月1日以降に開催される研修に適用する。
- 2 この改正取決めは令和4年1月1日から施行し、令和4年1月1日以降に開催される研修に適用する。
- 3 この改正取決めは令和4年4月1日から施行し、令和4年4月1日以降に開催される研修に適用する。

(研修情報登録開始日の例外)

- 4 第9条の規定に限らず令和2年度内に募集を開始する基礎研修に関しては事務局が申請を受け付けた日以後に管理システムに研修情報を登録し、受講者の募集を開始してもよい。

(認定研修修了者の認定期間の例外)

- 5 第15条の規定に限らず、平成26年度以降令和2年度までに開催された研修（基礎、中核人材、派遣チーム）の修了者は、一律認定期間を令和5年度末までとする。

被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め(細則)

第1条 この細則は、「被ばく医療研修認定委員会の運用に関する取決め」の施行について必要事項を定める。

第2条 研修開催機関が提出する認定申請の書類は様式1～2のとおりとする。

(研修認定基準)

第3条 基礎研修における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を各々30分以上講義すること。
 1. 原子力防災体制
 2. 放射線の基礎
 3. 放射線の影響
 4. 放射線防護
 5. 汚染検査・除染
 6. 安定ヨウ素剤
 7. 避難退域時検査
 8. 避難と屋内退避の支援
- (2) 前号(1)に掲げる講義は、被ばく医療研修認定委員会（以下、「認定委員会」という。）が承認する標準テキストを用いること。
- (3) 標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (4) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。また、研修開催場所で受講者の受講を確認すること。オンラインの場合は講義ごとに受講者の出欠を確認すること。
- (5) 各講義の講師は、令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験がある者、または令和3年4月以降に原子力災害医療中核人材研修修了者もしくは講師養成研修修了者であること。

第4条 専門研修（原子力災害医療中核人材研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を各々30分（4.については40分）以上講義すること。
 1. 医療機関の原子力災害対策
 2. 医療機関での初期対応
 3. 放射線障害の診断と治療
 4. 外部被ばくと内部被ばくの線量評価

5. 原子力災害時のメンタルヘルス
 6. 放射線管理要員の役割
 7. 原子力災害時例
- (2) 次のすべての項目を実習すること。
8. 放射線測定器の取り扱い
 9. ホールボディカウンターによる計測
 10. 防護装備着脱
 11. 医療施設の養生
 12. 除染（蛍光剤を使用しても良い）
 13. 傷病者の汚染検査
 14. 被ばく・汚染傷病者対応
- (3) 次の想定と設問を含む机上演習を実施すること。
1. 原子力災害拠点病院での汚染を伴う可能性のある傷病者の受入れに関し、受け入れ準備、診療手順、被ばく線量評価について検討する。
 2. 原子力災害時の住民対応に関し、医療機関等での受け入れ準備、多数汚染者への対応について検討する。
- (4) 前号(1)に掲げる講義は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。
- (5) 標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (6) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (7) 講義は対面方式、オンライン形式のいずれかで実施することができる。オンライン形式の場合はライブ方式とし、講師と受講者の双方向の質疑応答が可能であること、講義ごとに受講者の出欠を確認すること。
- (8) 各講義の講師は、令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験があること、または令和3年4月以降に講師養成研修修了者であること。
- (9) 実習および机上演習の講師は、令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療中核人材研修において実習および机上演習の指導経験がある者が最低1名は配置されること、または令和3年4月以降に講師養成研修修了者であること。
- (10) 基幹高度被ばく医療支援センターが作成する問題から、講義項目毎に1問以上、合計20問以上のポストテストを実施すること。

第5条 専門研修（原子力災害医療派遣チーム研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を各々30分以上講義すること。

1. 原子力災害医療派遣チーム
 2. 原子力災害医療派遣チームの活動
 3. 原子力災害時のリスクコミュニケーション
- (2) 次のすべての項目を実習すること。
1. 除染キットを使用した汚染・被ばくした傷病者対応
- (3) 次の想定と設問を含む机上演習を実施すること。
1. 原子力災害時に原子力災害医療派遣チームの待機要請があった場合の対応
 2. 原子力災害時に原子力災害医療派遣チームの派遣要請があった場合の対応
 3. 原子力災害医療派遣チームを医療機関等で受け入れる場合の対応
 4. 派遣先の原子力災害拠点病院での活動
- (4) 前号(1)に掲げる講義は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。
- (5) 標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (6) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (7) 講義は対面方式、オンライン形式のいずれかで実施することができる。オンライン形式の場合はライブ方式とし、講師と受講者の双方向の質疑応答が可能であること、講義ごとに受講者の出欠を確認すること。
- (8) 各講義の講師は、令和3年絵月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験があること、または令和3年4月以降に講師養成研修修了者であること。
- (9) 実習および机上演習の講師は、令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療中核人材研修において実習および机上演習の指導経験がある者が最低1名は配置されること、または令和3年4月以降に講師養成研修修了者であること。

第6条 専門研修（ホールボディカウンター研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を講義すること。
 1. 線量評価の概念
 2. 体外計測法
 3. 話題提供
- (2) 次のすべての項目を実習すること。
 1. ガンマ線スペクトロメトリ（検出器の概要と測定方法、校正、計数効率の算出、未知試料の測定と試料の評価）

2. ホールボディカウンタ（ファントムの使い方、効率校正、点線源を用いた校正チェック、計数効率の算出、被験者の測定、体内残留量・摂取量・内部被ばく線量の算出、日常のメンテナンス方法）
 3. 内部被ばく線量の計算(MONDAL3の使い方、シナリオに基づいた計算)
- (3) 前号(1)に掲げる講義 1.と 2.は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。講義 3.については公衆の線量評価に関連する内容を講義する。
 - (4) 講義 1.と 2.は標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。講義 3.については、使用する資料を認定委員会に提出し、承認を得ること。
 - (5) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
 - (6) 研修は対面方式で実施する。
 - (7) 各講義及び実習の講師は、令和 3 年 3 月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験があること、または令和 3 年 4 月以降に講師養成研修修了者であること。

第 7 条 専門研修（甲状腺簡易測定研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を講義すること。
 1. 原子力災害対応
 2. 甲状腺簡易検査
 3. 話題提供
- (2) 次のすべての項目を実習すること。
 1. 甲状腺簡易測定
- (3) 前号(1)に掲げる講義 1.と 2.は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。講義 3.については甲状腺簡易測定に関連する内容を講義する。
- (4) 講義 1.と 2.は標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。講義 3.については、使用する資料を認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (5) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (6) 研修は対面方式で実施する。
- (7) 各講義及び実習の講師は、令和 3 年 3 月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験があること、または令和 3 年 4 月以降に講師養成研修修了者であること。

第 8 条 専門研修（染色体分析研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を講義すること。
 1. 放射線事故災害と被ばく医療

2. 染色体分析による被ばく線量評価
- (2) 次のすべての項目を実習すること。
 1. 画像診断練習として二動原体の判定
- (3) 前号(1)に掲げる講義は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。
- (4) 標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (5) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (6) 講義は対面方式、オンライン形式のいずれかで実施することができる。オンライン形式の場合はライブ方式とし、講師と受講者の双方向の質疑応答が可能であること、講義ごとに受講者の出欠を確認すること。
- (7) 各講義及び実習の講師は、令和3年3月末までに認定委員会が認める原子力災害医療に関する研修の講師経験があること、または令和3年4月以降に講師養成研修修了者であること。

第9条 高度専門研修（高度専門被ばく医療研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 高度被ばく医療支援センター連携会議で承認された項目を講義すること。
- (2) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (3) 講義は対面方式、オンライン形式のいずれかで実施することができる。オンライン形式の場合はライブ方式とし、講師と受講者の双方向の質疑応答が可能であること、講義ごとに受講者の出欠を確認すること。
- (4) 各講義の講師は、研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者であること。

第10条 高度専門研修（講師養成研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を講義すること。
 1. 放射線測定器の取り扱い実習のポイント
 2. 防護装備着脱実習のポイント
 3. 医療施設養生実習のポイント
 4. WBC計測実習のポイント
 5. 傷病者汚染検査実習のポイント
 6. 除染実習のポイント
 7. 被ばく医療実習のポイント
 8. 甲状腺簡易測定実習のポイント
 9. γ 線スペクトロメトリ実習のポイント
 10. 内部被ばく線量の計算のポイント

- (2) 前号(1)に掲げる講義は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。
- (3) 標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (4) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (5) 講義は対面方式、オンライン形式のいずれかで実施することができる。オンライン形式の場合はライブ方式とし、講師と受講者の双方向の質疑応答が可能であること、講義ごとに受講者の出欠を確認すること。
- (6) 各講義の講師は、令和 3 年 4 月以降に講師養成研修修了者、もしくは研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者であること。

第 1 1 条 高度専門研修（体外計測研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を講義すること。
 1. ホールボディカウンタ(WBC)を用いた体外計測
 2. 甲状腺モニタを用いた体外計測
 3. 話題提供
- (2) 次のすべての項目を実習すること。
 1. ガンマ線スペクトロメトリ（エネルギー校正、ピーク効率校正、I-131 ピーク効率計算、甲状腺中 I-131 残留量の計算）
- (3) 前号(1) に掲げる講義 1.と 2.は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。講義 3.については原子力災害時の甲状腺モニタリング等の体外計測に関連する内容を講義する。
- (4) 講義 1.と 2.は標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。講義 3.については、使用する資料を認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (5) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (6) 講義は対面方式で実施すること。
- (7) 各講義及び実習の講師は、令和 3 年 4 月以降に講師養成研修修了者、もしくは研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者であること。

第 1 2 条 高度専門研修（バイオアッセイ研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を講義すること。
 1. バイオアッセイに基づく内部被ばく線量評価
 2. プルトニウム内部被ばく事故対応
- (2) 次のすべての項目を実習すること。

1. 前処理；有機物分解（尿試料のサンプリング、湿式灰化法による有機物分解、鉄共沈、Pu の価数調整）
 2. 前処理；核種分離（レジンのコンディショニング、サンプル溶液の濾過、TEVA と DGA レジンへの吸着、TEVE と DGA レジンからの溶離）
 3. 測定試料作成及び測定（溶離液の蒸発乾固、電着試料作成、試料測定）
 4. 内部被ばく線量の計算(MONDAL3 の使い方、シナリオに基づいた計算)
- (3) 前号(1) に掲げる講義は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。
- (4) 標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (5) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (6) 講義は対面方式で実施すること。
- (7) 各講義及び実習の講師は、令和 3 年 4 月以降に講師養成研修修了者、もしくは研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者であること。

第 13 条 高度専門研修（高度専門染色体分析研修）における認定基準を次の各号の通り定める。

- (1) 次のすべての項目を講義すること。
 1. 高度染色体分析法
 2. 細胞質分裂阻害微小核法
- (2) 次のすべての項目を実習すること。
 1. 二動原体分析
 2. FISH 転座分析
 3. 核分裂指数の判定
 4. 二核細胞における微小核の判定
- (3) 前号(1) に掲げる講義は、認定委員会が承認する標準テキストを用いること。
- (4) 標準テキストの使用に際し、追加資料を使用、配布する場合は、認定委員会に提出し、承認を得ること。
- (5) 研修開催責任者は、原子力災害医療に関する研修の講師経験があること。
- (6) 講義は対面方式、オンライン形式のいずれかで実施することができる。オンライン形式の場合はライブ方式とし、講師と受講者の双方向の質疑応答が可能であること、講義ごとに受講者の出欠を確認すること。
- (7) 各講義及び実習の講師は、令和 3 年 4 月以降に講師養成研修修了者、もしくは研修開催責任者が研修に関わる専門知識を有していると認めた者であること。

(修了基準)

第14条 基礎研修の修了基準を次の各号の通り定める。

- (1) すべての講義を聴講すること。
- (2) 講義の聴講が複数の研修にまたがった場合は、受講者は研修開催機関から聴講した講義の参加証明を受領すること。

第15条 専門研修(原子力災害医療中核人材研修)の修了基準を次の各号の通り定める。

- (1) 5つ以上の講義およびすべての実習と机上演習を受講すること。
- (2) ポストテストの正答率が80%以上であること。

第16条 専門研修(原子力災害医療中核人材研修以外)および高度専門研修の各研修の修了基準を次の各号の通り定める。

- (1) 各研修で実施される全講義数の8割以上の講義を聴講すること。
- (2) 実習と机上演習が実施される研修は、すべての実習と机上演習を受講すること。

(研修認定結果通知)

第17条 研修認定時に認定委員会が開催機関に交付する研修認定結果通知書は様式3のとおりとする。

(実施報告)

第18条 研修実施後に開催機関が認定委員会に提出する実施報告書は様式4のとおりとする。

(修了認定結果通知)

第19条 認定委員会が開催機関に交付する修了認定結果通知書は様式5のとおりとする。

(修了証書)

第20条 修了証書は様式6のとおりとする。

(標準テキスト)

第21条 認定委員会が承認する標準テキストは次の各号に定めたものとする。

- (1) 放射線安全規制研究戦略的推進事業費(包括的被ばく医療の体制構築に関する調査研究)事業での成果物
- (2) 前号の標準テキストを原子力規制庁の委託事業等で修正、改訂したもの
- (3) 研修開催機関が新規に作成し、別に定める標準テキストワーキンググループ

の審査を経て、認定委員会が承認したもの

(研修修了者の認定資格の更新の条件)

第22条 修了証書の有効期限は発行日の3年後の年度末とし、研修の更新の手続きを次の各号のとおり定める。

- (1) 修了証の有効期限内に、受講資格のある研修を受講すること。
- (2) 講師養成研修修了者は、研修修了日を講師資格登録日とする。

(講師資格の更新)

第23条 講師資格は登録日あるいは更新日の3年後の年度末とし、更新の手続きを次の各号の通り定める。

- (1) 講師資格有効年度内に3回以上の講師履歴により更新を認める。有効年度の翌年度のいずれかの日を更新日とする。
- (2) 講師履歴は同一研修につき1回、同一日の研修につき1回とする。
- (3) 令和3年3月末までに講師履歴がある者は、令和5年度末まで講師資格有効とする。

(規則の改正)

第24条 この細則は、認定委員会委員長が認定委員会に諮って改正することができる。

[附則]

(施行期日)

- 1 この細則は令和2年12月25日から施行し、令和3年4月1日以降に開催される研修に適用する。
- 2 この改正細則は令和4年1月1日から施行する。
- 3 この改正細則は令和4年4月1日から施行し、令和4年4月1日以降に開催される研修に適用する。

9. 過去研修リスト

9.1. 原子力災害医療基礎研修

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2014001	青森県	H26 年度	青森県緊急被ばく医療活動研修	青森県 (原安技)	青森県観光物産館アスパム	2014/10/27	23
2014002	岐阜県	H26 年度	原子力災害時の医療対応（講義）、放射線測定器の取扱い（講義・実習）、机上演習	原安協	ソフトピアジャパン	2014/7/6	41
2014003	岐阜県	H26 年度	原子力災害時の医療対応（講義）、放射線測定器の取扱い（講義・実習）、机上演習	原安協	ソフトピアジャパン	2014/8/7	55
2014004	岐阜県	H26 年度	原子力災害時の医療対応（講義）、原子力災害時のスクリーニング（講義・実習）、被検者への対応（講義）	原安協	ソフトピアジャパン	2014/12/3	26
2014005	岐阜県	H26 年度	原子力災害時の医療対応（講義）、原子力災害時のスクリーニング（講義・実習）、被検者への対応（講義）	原安協	ソフトピアジャパン	2015/1/25	22
2014006	北海道	H26 年度	平成 26 年度原子力災害医療研修	北海道	北海道原子力環境センター	2015/1/31	50
2014007	富山県	H26 年度	被ばく医療研修	原安技センター	金沢医科大学 氷見市民病院	2014/10/00	440
2014008	富山県	H26 年度	被ばく医療研修	原安技センター	高岡ふしき病院	2015/01/00～ 02/00	156
2014009	富山県	H26 年度	被ばく医療研修	原安技センター	厚生連高岡病院	2015/02/00～ 03/00	889
2014010	富山県	H26 年度	被ばく医療研修	広島大学	富山県立中央病院（二次）	2015/01/00	65
2014011		H26 年度	医療機関全職員向けコース	放医研	水戸赤十字病院	2015/2/10	65
2014012		H26 年度	医療機関全職員向けコース	放医研	市立八幡浜総合病院	2015/2/16	60
2014013		H26 年度	平成 26 年度鳥取県緊急被ばく医療研修	原安技センター	鳥取県庁	2015/3/19	10
2014014		H26 年度	平成 26 年度鳥取県緊急被ばく医療研修	原安技センター	米子コンベンションセンター	2015/3/20	12
2014015		H26 年度	平成 26 年度第 1 回 原子力災害対応基礎研修会	日本赤十字社	日本赤十字社本社	2014/11/5	71

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2014016		H26 年度	平成 26 年度第 2 回 原子力災害対応基礎研修会	日本赤十字社	日本赤十字社本社	2015/2/20	85
2014017	石川県	H26 年度	被ばく医療機関が行うスクリーニング・問診研修会	石川県	県立看護大	2014/9/15	49
2014018	石川県	H26 年度	被ばく医療機関が行うスクリーニング・問診研修会	石川県	輪島市文化会館	2014/10/5	18
2014019	鹿児島県	H26 年度	被ばく医療研修会（茨城県立医療大学）	済生会川内病院	済生会川内病院	2014/7/15	97
2014020	島根県	H26 年度	緊急被ばく医療活動訓練	原安協	島根県庁	2014/10/18	28
2014021	新潟県	H26 年度	災害医療コーディネーター・災害時医療従事者合同研修	新潟大学医歯学総合病院	新潟大学医歯学総合病院	2016/3/28	44
2014022	愛媛県	H26 年度	愛媛県緊急被ばく医療研修(救護所活動)	愛媛県(原安協)	愛媛県生涯学習センター	2015/1/30	31
2014023	愛媛県	H26 年度	日本赤十字社 緊急被ばく医療フォローアップ研修	日本赤十字社	日本赤十字社	2014/10/11	1
2014024	滋賀県	H26 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2015/3/3	85
2014025	滋賀県	H26 年度	緊急被ばく医療対応研修 (滋賀県DMAT強化研修)	大津赤十字病院 (県委託事業)	長浜赤十字病院	2015/3/14	12
2014026	滋賀県	H26 年度	緊急被ばく医療関係者の資質向上のための研修会	原子力安全研究協会 (県委託事業)	大津赤十字病院	2015/3/15	18
2014027	神奈川県	H26 年度	神奈川県緊急被ばく医療研修会	神奈川県(有限会社自然文化創舎)	ヨコハマジャスト1号館 8階 1号室	2015/2/18	79
2015001	青森県	H27 年度	青森県緊急被ばく医療活動研修	青森県(原安技)	マエダアリーナ	2015/10/26～ 27	49
2015002	青森県	H27 年度	青森県被ばく医療実践対応指導者育成研修	青森県 (弘前大学)	弘前大学大学院 保健学研究科	2015/10/23～ 24	9
2015003	青森県	H27 年度	青森県被ばく医療実践対応指導者育成研修	青森県 (弘前大学)	弘前大学大学院 保健学研究科	2015/11/20～ 21	9
2015004	青森県	H27 年度	青森県被ばく医療実践対応指導者育成研修	青森県 (弘前大学)	弘前大学大学院 保健学研究科	2015/12/18～ 19	9
2015005	北海道	H27 年度	平成 2 7 年度北海道緊急被ばく医療研修会 (避難退域時検査及び簡易除染)	北海道	株式会社北海道建設会館	2016/3/12	30

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2015006	滋賀県	H27 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2015/6/11	48
2015007	滋賀県	H27 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師会 (県委託事業)	長浜赤十字病院	2015/7/5	45
2015008	滋賀県	H27 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師会 (県委託事業)	大津市民病院	2015/12/6	33
2015009	滋賀県	H27 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師会 (県委託事業)	済生会滋賀県病院	2015/3/13	32
2015010	滋賀県	H27 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2016/3/18	37
2015011	滋賀県	H27 年度	緊急被ばく医療関係者の資質向上のための研修会	原安協 (県委託事業)	滋賀医科大学 医学部附属病院	2016/3/21	41
2015012	富山県	H27 年度	被ばく医療研修	原安技センター	高岡市民病院	2015/07/00~ 09/00	466
2015013	富山県	H27 年度	被ばく医療研修	原安技センター	済生会高岡病院	2016/01/00	138
2015014	富山県	H27 年度	被ばく医療研修	原安技センター	射水市民病院	2016/01/00	194
2015015	富山県	H27 年度	被ばく医療研修	原安技センター	北陸中央病院	2015/10/00	195
2015016	富山県	H27 年度	被ばく医療研修	原安技センター	市立砺波総合病院	2015/12/00	290
2015017	富山県	H27 年度	被ばく医療研修	原安技センター	南砺市民病院	2015/11/00	213
2015018	富山県	H27 年度	被ばく医療研修	原安技センター	南砺中央病院	2015/11/00	23
2015019	富山県	H27 年度	被ばく医療研修	原安技センター	北陸病院	2015/11/00	172
2015020	富山県	H27 年度	被ばく医療研修	原安技センター	富山赤十字病院	2015/12/00~ 2016/01/00	618
2015021		H27 年度	平成 27 年度鳥取県緊急被ばく医療研修	原安技センター	鳥取県西部総合事務所講堂	2015/9/24	15
2015022		H27 年度	平成 27 年度第 1 回原子力災害対応基礎研修会	日本赤十字社	日本赤十字社	2015/9/3	81
2015023		H27 年度	平成 27 年度第 2 回原子力災害対応基礎研修会	日本赤十字社	日本赤十字社	2015/11/6	57
2015024	石川県	H27 年度	原子力災害時のスクリーニング・問診研修会	石川県	地場産業振興センター	2015/10/25	33
2015025	石川県	H27 年度	原子力災害時のスクリーニング・問診研修会	石川県	コンセルのと	2015/11/3	11

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2015026	鹿児島県	H27 年度	被ばく医療講演会 (市立八幡浜総合病院)	済生会川内病院	済生会川内病院	2015/6/15	不明
2015027	島根県	H27 年度	緊急被ばく医療活動訓練	原安協(委託)	島根県庁	2015/10/25	17
2015028	愛媛県	H27 年度	原子力災害時の医療活動研修	愛媛県(原子力安全研究協会)	愛媛県生涯学習センター	2016/3/8	18
2015029	愛媛県	H27 年度	原子力施設内の緊急作業時の被災労働者対応のための専門人材育成等事業導入研修 (放射線管理コース)	原安協	いわき事務所	2016/2/2~ 2/6	1
2015030	愛媛県	H27 年度	被ばく医療に関する研修(救命 HCU 対象)	愛媛県立中央病院	愛媛県立中央病院 (4 階カンファレンスルーム)	2015/9/24	22
2015031	愛媛県	H27 年度	養生・防護に関する実習 (救命 ICU,HCU 対象)	愛媛県立中央病院	愛媛県立中央病院(除染室)	2015/9/30	16
2015032	愛媛県	H27 年度	緊急被ばく患者受入れ実習(養生・防護・治療等)(医師、放射線技師、看護師、事務職員対象)	愛媛県立中央病院	愛媛県立中央病院 (救急外来)	2015/11/9	20
2015033	愛媛県	H27 年度	養生・防護に関する実習 (救命 ICU,HCU 対象)	愛媛県立中央病院	愛媛県立中央病院(救急外来)	2015/11/10	10
2015034	神奈川県	H27 年度	横須賀地域被ばく医療講習会	神奈川県(有限会社自然文化創舎)	横須賀共済病院 外来1号館 講堂	2015/12/14	56
2015035	神奈川県	H27 年度	川崎地域被ばく医療講習会	神奈川県(有限会社自然文化創舎)	川崎市立川崎病院 A棟7階 講堂	2015/12/21	28
2015036	神奈川県	H27 年度	神奈川県緊急被ばく医療研修会	神奈川県(有限会社自然文化創舎)	ヨコハマジャスト1号館 8階 1号室	2016/2/23	84
2016001	青森県	H28 年度	安定ヨウ素剤の事前配布に係る研修会	青森県	東通村防災センター	2016/9/13	30
2016002	青森県	H28 年度	青森県原子力災害医療実践対応指導者育成研修	青森県(弘前大学)	プラザホテルむつ (むつ市下北町)	2016/10/7	17
2016003	青森県	H28 年度	安定ヨウ素剤の事前配布に係る研修会	青森県	青森県むつ合同庁舎	2016/10/14	30
2016004	青森県	H28 年度	安定ヨウ素剤の事前配布に係る研修会	青森県(弘前大学)	青森県むつ合同庁舎	2016/11/11~ 12	22
2016005	岐阜県	H28 年度	原子力災害時の医療に係わる研修	原安協	ソフトピアジャパン	2017/3/10	16

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
			(安定ヨウ素剤) (講義・演習)				
2016006	岐阜県	H28 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 (基礎研修) (講義・演習)	原安協	ソフトピアジャパン	2017/3/12	17
2016007	岐阜県	H28 年度	原子力災害時の医療に係わる研修(避難退 域時検査・簡易除染) (講義・演習)	原安協	ソフトピアジャパン	2017/3/13	10
2016008	北海道	H28 年度	平成28年度北海道 「原子力災害医療研修(安定ヨウ素剤)」	北海道	北海道後志総合振興局	2017/3/3	30
2016009	北海道	H28 年度	平成28年度北海道「原子力災害医療研修 (避難退域時検査・簡易除染)」	北海道	北海道建設会館	2017/3/4	30
2016010	滋賀県	H28 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2016/6/29	23
2016011	滋賀県	H28 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師 会(県委託事業)	近江八幡市立総合医療センター	2016/9/4	24
2016012	滋賀県	H28 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師 会(県委託事業)	彦根市立病院	2016/11/20	24
2016013	滋賀県	H28 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2016/12/7	26
2016014	滋賀県	H28 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師 会(県委託事業)	公立甲賀病院	2017/1/29	36
2016015	滋賀県	H28 年度	美浜原子力発電所施設説明会	長浜赤十字病院	美浜原子力発電所	2017/3/17	9
2016016	滋賀県	H28 年度	緊急被ばく医療関係者の資質向上のための 研修会	原安協 (県委託事業)	市立長浜病院	2017/3/11	58
2016017	富山県	H28 年度	第1回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	あさひ総合病院	2016/10/3	88
2016018	富山県	H28 年度	第2回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	あさひ総合病院	2016/10/4	83
2016019	富山県	H28 年度	第3回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	国立病院機構富山病院	2016/10/11	59
2016020	富山県	H28 年度	第4回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	済生会富山病院	2016/10/31	24
2016021	富山県	H28 年度	第5回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	国立病院機構富山病院	2016/11/7	69
2016022	富山県	H28 年度	第6回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山通信病院	2016/11/11	25
2016023	富山県	H28 年度	第7回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	黒部市民病院	2016/11/16	78
2016024	富山県	H28 年度	第8回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山通信病院	2016/11/18	18
2016025	富山県	H28 年度	第9回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	厚生連滑川病院	2016/11/21	108
2016026	富山県	H28 年度	第10回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	厚生連滑川病院	2016/11/22	70

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2016027	富山県	H28 年度	第 11 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	厚生連滑川病院	2016/11/25	82
2016028	富山県	H28 年度	第 12 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	国立病院機構富山病院	2016/11/28	57
2016029	富山県	H28 年度	第 13 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	かみいち総合病院	2016/11/29	57
2016030	富山県	H28 年度	第 14 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	かみいち総合病院	2016/12/6	60
2016031	富山県	H28 年度	第 15 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	かみいち総合病院	2016/12/7	53
2016032	富山県	H28 年度	第 16 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山市立富山市民病院	2016/12/12	99
2016033	富山県	H28 年度	第 17 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	済生会富山病院	2016/12/15	36
2016034	富山県	H28 年度	第 18 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山市立富山市民病院	2016/12/26	112
2016035	富山県	H28 年度	第 19 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山市立富山市民病院	2017/1/16	64
2016036	富山県	H28 年度	第 20 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	黒部市民病院	2017/1/18	105
2016037	富山県	H28 年度	第 21 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山市立富山市民病院	2017/1/25	123
2016038	富山県	H28 年度	第 22 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山市立富山市民病院	2017/1/30	102
2016039	富山県	H28 年度	第 23 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山労災病院	2017/2/1	50
2016040	富山県	H28 年度	第 24 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山労災病院	2017/2/2	62
2016041	富山県	H28 年度	第 25 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	2017/2/7	133
2016042	富山県	H28 年度	第 26 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山労災病院	2017/2/8	44
2016043	富山県	H28 年度	第 27 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山労災病院	2017/2/9	52
2016044	富山県	H28 年度	第 28 回富山県原子力災害時医療研修	原安技センター	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	2017/2/14	96
2016045		H28 年度	平成 28 年度鳥取県緊急被ばく医療研修	原安技センター	鳥取県庁	2016/10/12	15
2016046		H28 年度	平成 28 年度鳥取県緊急被ばく医療研修	原安技センター	鳥取県西部総合事務所 講堂	2016/10/13	11
2016047		H28 年度	平成 28 年度第 4 ブロック原子力災害対応基礎研修会	日本赤十字社	大阪赤十字会館	2016/11/26	不明
2016048		H28 年度	平成 28 年度第 6 ブロック原子力災害対応基礎研修会	日本赤十字社	日本赤十字社福岡県支部	2017/1/18	不明
2016049		H28 年度	平成 28 年度第 2 ブロック原子力災害対応基礎研修会	日本赤十字社	日本赤十字社東京都支部	2017/2/22	不明
2016050	石川県	H28 年度	原子力災害医療研修（避難退域時検査）	石川県	地場産業振興センター	2016/11/3	26

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2016051	石川県	H28 年度	原子力災害医療研修（避難退域時検査）	石川県	県立生涯学習センター	2016/11/12	7
2016052	鹿児島県	H28 年度	被ばく医療講演会	済生会川内病院	済生会川内病院	2016/6/6	不明
2016053	鹿児島県	H28 年度	原子力災害時医療研修 （医療機関における対応）	原安協	鹿児島大学 桜ヶ丘キャンパス	2017/1/18	81
2016054	鹿児島県	H28 年度	原子力災害時医療研修 （避難退域時検査及び簡易除染）	原安協	県民交流センター	2017/1/19	15
2016055	島根県	H28 年度	原子力災害医療活動研修	島根県	玉造病院	2017/2/18	74
2016056	新潟県	H28 年度	災害医療コーディネーター・災害時医療従事者合同研修	新潟大学医歯学総合病院	新潟大学医歯学総合病院	2016/12/11	51
2016057	青森県	H28 年度	原子力災害研修会 「放射線の知識 基礎中の基礎」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2016/6/8	41
2016058	青森県	H28 年度	原子力災害研修会 「放射線の知識 基礎中の基礎」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2016/6/15	45
2016059	青森県	H28 年度	原子力災害研修会「放射線防護について」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2016/7/20	20
2016060	青森県	H28 年度	原子力災害研修会「放射線防護について」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2016/7/27	19
2016061	青森県	H28 年度	原子力災害研修会 「医療活動に必要な放射線測定等」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2016/8/31	17
2016062	青森県	H28 年度	原子力災害研修会 「医療活動に必要な放射線測定等」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2016/9/7	11
2016063	青森県	H28 年度	原子力災害医療対応基礎研修会（第1回）	青森県立中央病院	アピオ青森（青森市）	2016/12/2	65
2016064	青森県	H28 年度	原子力災害医療対応基礎研修会（第2回）	青森県立中央病院	公済会館（むつ市）	2016/12/19	52
2016065	愛媛県	H28 年度	原子力災害時の医療活動研修	愛媛県(原安協)	愛媛県総合社会福祉会館	2016/11/2	19
2016066	愛媛県	H28 年度	原子力災害対策要員研修	愛媛県	八幡浜市	2016/8/29	1
2016067	愛媛県	H28 年度	原子力災害時の医療に係る研修 講師養成講座	原安協	原安協東京都港区	2016/9/11	2
2016068	愛媛県	H28 年度	原子力災害時の医療に係る研修 講師養成講座	原安協	原安協東京都港区	2016/9/18～ 19	1
2016069	愛媛県	H28 年度	原子力災害時の医療に係る研修 講師養成講座	原安協	原安協東京都港区	2016/10/01～ 02	2

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2016070	愛媛県	H28 年度	原子力災害時の医療に係る研修 講師養成講座	広島大学病院	広島大学病院	2016/10/09～ 10	4
2016071	愛媛県	H28 年度	原子力防災基礎研修	愛媛県	松山市	2016/10/25	1
2016072	愛媛県	H28 年度	原子力災害時の医療に係る研修 講師養成講座	原安協	原安協東京都港区	2016/11/22～ 23	1
2016073	愛媛県	H28 年度	原子力災害時の医療に係る研修 講師養成講座	原安協	原安協東京都港区	2017/2/21	1
2016074	愛媛県	H28 年度	放射線と被ばくに関する講義及び養生・防 護に関する実習(救命ICU,HCU)	愛媛県立中央病院	愛媛県立中央病院(4ICU カンフ ァレンス室・救急外来)	2016/9/26	10
2016075	愛媛県	H28 年度	緊急被ばく患者受入れ実習(養生・防護・ 治療等)(医師、放射線技師、看護師、事 務職員対象)	愛媛県立中央病院	愛媛県立中央病院 (救急外来)	2016/11/11	20
2016076	愛媛県	H28 年度	放射線と被ばくに関する講義及び養生・防 護に関する実習(救命ICU)	愛媛県立中央病院	愛媛県立中央病院 (救急外来)	2017/2/23	4
2016077	神奈川県	H28 年度	被ばく医療講習会	神奈川県(有限会 社自然文化創舎)	横須賀市立市民病院 西棟 7 階 講堂	2016/12/14	43
2016078	神奈川県	H28 年度	神奈川県緊急被ばく医療研修会	神奈川県(有限会 社自然文化創舎)	ヨコハマジャスト 1 号館 8 階 1 号室	2017/2/22	72
2016079	佐賀県	H28 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修	原安協	アバンセ(佐賀県)	2016/9/9	35
2016080	佐賀県	H28 年度	佐賀県原子力災害医療専門研修	原安協	アバンセ(佐賀県)	2017/2/8	27
2017001	青森県	H29 年度	第 1 回安定ヨウ素剤の事前配布に係る研修 会	青森県	むつ保健所	2017/6/6	30
2017002	青森県	H29 年度	第 2 回 安定ヨウ素剤の事前配布に係る研修会	青森県	東通村白糠地区避難施設	2017/6/29	30
2017003	青森県	H29 年度	青森県原子力災害医療に関する基礎研修	青森県(原安協)	むつ市役所大会議室 (むつ市中央)	2017/10/12	31
2017004	青森県	H29 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修 (安定ヨウ素剤等)	青森県(原安協)	むつ市役所大会議室 (むつ市中央)	2017/10/13	30
2017005	青森県	H29 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修 (避難退域時検査・簡易除染)	青森県(原安協)	青森県むつ合同庁舎 (むつ市中央)	2017/10/13	12

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2017006	北海道	H29 年度	平成 2 9 年度北海道原子力災害医療研修会 (安定ヨウ素剤の配布)	北海道	後志労働福祉センター	2018/1/18	30
2017007	北海道	H29 年度	平成 2 9 年度北海道原子力災害医療研修会 (避難退域時検査・簡易除染)	北海道	北農健保会館	2018/1/28	30
2017008	滋賀県	H29 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2017/6/9	210
2017009	滋賀県	H29 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師 会 (県委託事業)	市立長浜病院	2017/10/29	21
2017010	滋賀県	H29 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2017/12/7	74
2017011	滋賀県	H29 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師 会 (県委託事業)	J C H O 滋賀病院	2017/12/17	23
2017012	滋賀県	H29 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師 会 (県委託事業)	県立総合病院	2018/2/4	12
2017013	滋賀県	H29 年度	緊急被ばく医療関係者の資質向上のための 研修会	原安協 (県委託事業)	彦根市立病院	2018/3/17	28
2017014		H29 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 講師養成講座①基礎研修	原安協	東京都港区	2017/8/29	12
2017015		H29 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 講師養成講座①基礎研修	原安協	東京都港区	2017/9/23	20
2017016		H29 年度	平成 29 年度青森県 「原子力災害医療に関する基礎研修」	原安協	青森県むつ市	2017/10/12	31
2017017		H29 年度	平成 29 年度鳥取県緊急被ばく医療研修	原安技センター	米子市文化ホール	2017/10/30	5
2017018		H29 年度	平成 29 年度鳥取県緊急被ばく医療研修	原安技センター	鳥取県東部庁舎	2017/11/1	27
2017019		H29 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 講師養成講座①基礎研修	原安協	大阪府吹田市	2017/11/7	20
2017020		H29 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 講師養成講座①基礎研修	原安協	東京都港区	2017/12/9	17
2017021		H29 年度	平成 29 年度滋賀県 「原子力災害対応要員のための基礎研修」	原安協	滋賀県長浜市	2018/1/23	91
2017022		H29 年度	平成 29 年度佐賀県原子力災害医療基礎研 修 (安定ヨウ素剤等)	原安協	佐賀県唐津市	2018/2/14	44

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2017023		H29 年度	平成 29 年度大阪地区緊急被ばく医療「保健所等関係者研修会」	原安協	大阪府大阪市	2018/3/20	14
2017024		H29 年度	平成 29 年度長崎県原子力災害医療研修会	原安協	長崎県佐世保市	2018/3/25	42
2017025		H29 年度	平成 29 年度日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会（第 1 ブロック）	日本赤十字社	石巻赤十字病院	2017/06/03～04	47
2017026		H29 年度	平成 29 年度日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会（第 3 ブロック）	日本赤十字社	福井商工会議所	2017/06/16～17	42
2017027		H29 年度	平成 29 年度日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会（第 5 ブロック）	日本赤十字社	松江赤十字病院	2018/01/24～25	54
2017028	石川県	H29 年度	原子力災害医療研修（避難退域時検査）	石川県	石川総合スポーツセンター	2017/11/11	28
2017029	石川県	H29 年度	原子力災害医療研修（避難退域時検査）	石川県	県立生涯学習センター	2017/11/19	7
2017030	鹿児島県	H29 年度	原子力災害時医療研修（医療機関における対応）	原安協	鹿児島大学桜ヶ丘キャンパス	2018/1/15	29
2017031	鹿児島県	H29 年度	原子力災害時医療研修（避難退域時検査及び簡易除染）	原安協	自治会館	2018/1/16	26
2017032	鹿児島県	H29 年度	被ばく医療研修会（長崎大学病院）	済生会川内病院	済生会川内病院	2017/10/13	61
2017034	島根県	H29 年度	原子力災害医療に関わる講演会及び実務研修	原安協（委託）	島根大学医学部附属病院	2018/2/4	52
2017035	青森県	H29 年度	原子力災害医療研修会「放射線の基礎知識、人体への影響、放射線防護について」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2017/6/15	28
2017036	青森県	H29 年度	原子力災害医療研修会「放射線の基礎知識、人体への影響、放射線防護について」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2017/7/6	26
2017037	青森県	H29 年度	原子力災害医療研修会「養生・防護衣装着について」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2017/9/7	12
2017038	青森県	H29 年度	原子力災害医療研修会「養生・防護衣装着について」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2017/9/28	34
2017039	青森県	H29 年度	原子力災害医療基礎研修会（第 1 回）	青森県立中央病院	公済会館（むつ市）	2017/11/24	45
2017040	青森県	H29 年度	原子力災害医療基礎研修会（第 2 回）	青森県立中央病院	ワ・ラッセ（青森市）	2017/12/22	45
2017041	大阪府	H29 年度	原子力災害医療研修会	原安協	大阪府庁	2018/3/28	13
2017042	愛媛県	H29 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	公立学校共済組合四国中央病院	2017/7/24	20

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2017043	愛媛県	H29 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	市立大洲病院	2017/8/18	34
2017044	愛媛県	H29 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	愛媛県立新居浜病院	2017/8/25	10
2017045	愛媛県	H29 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	西条市立周桑病院	2017/8/25	29
2017046	愛媛県	H29 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	鬼北町立北宇和病院	2017/8/29	26
2017047	愛媛県	H29 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	市立宇和島病院	2017/8/29	59
2017048	愛媛県	H29 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	久万高原町立病院	2017/9/5	34
2017049	愛媛県	H29 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	愛媛県立今治病院	2017/9/14	43
2017050	愛媛県	H29 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	西予市立西予市民病院	2017/9/26	38
2017051	愛媛県	H29 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	愛媛県立南宇和病院	2017/10/4	22
2017052	愛媛県	H29 年度	原子力災害時の医療活動研修	愛媛県(原安協)	愛媛県中予地方局	2017/10/24	21
2017053	愛媛県	H29 年度	原子力防災基礎研修	愛媛県	メルパルク松山	2017/8/24	1
2017054	愛媛県	H29 年度	放射線と被ばくに関する講義及び養生・防護に関する実習(救命 ICU,HCU)	愛媛県立中央病院	愛媛県立中央病院(4ICU カンファレンス室・救急外来)	2017/12/18	10
2017055	神奈川県	H29 年度	被ばく医療講習会	神奈川県(有限会社自然文化創舎)	川崎市立川崎病院 A棟7階講堂	2017/12/4	46
2017056	神奈川県	H29 年度	神奈川県緊急被ばく医療研修会	神奈川県(有限会社自然文化創舎)	ヨコハマジャスト1号館 8階1号室	2018/1/24	70
2017057		H29 年度	広島大学原子力災害医療基礎研修	広島大学	広島大学	2018/1/25	220
2017058	佐賀県	H29 年度	佐賀県原子力災害医療専門研修	原安協	ホテルグランデはがくれ	2018/2/26	54
2017059		H29 年度	平成 29 年度広島大学放射線診療業務従事者研修	広島大学	広島大学	2017/10/5	105
2018001	青森県	H30 年度	青森県原子力災害医療に関する基礎研修	青森県(原安協)	むつ市役所大会議室	2018/10/9	43
2018002	青森県	H30 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修(安定ヨウ素剤等)	青森県(原安協)	むつ市役所大会議室	2018/10/10	27
2018003	青森県	H30 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修(避難退域時検査・簡易除染)	青森県(原安協)	青森県むつ合同庁舎	2018/10/10	27
2018004	青森県	H30 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修(医療機関の対応)	青森県(原安協)	むつ総合病院	2018/10/27	11
2018005	岐阜県	H30 年度	原子力災害時の医療に係わる研修(医療機関の対応(医療・搬送))(講義・演習)	原安協	大垣市民病院	2019/3/23	17

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2018006	岐阜県	H30 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 (安定ヨウ素剤) (講義・演習)	原安協	ソフトピアジャパン	2019/3/27	10
2018007	福島県	H30 年度	平成30年度 フォローアップ研修会	福島県立医科大学	福島県立医科大学	2019/3/3	17
2018008	滋賀県	H30 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2018/6/14	61
2018009	滋賀県	H30 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師会 (県委託事業)	近江八幡市立総合医療センター	2018/7/29	13
2018010	滋賀県	H30 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師会 (県委託事業)	市立大津市民病院	2018/11/18	13
2018011	滋賀県	H30 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2018/11/29	67
2018012	滋賀県	H30 年度	美浜原子力発電所施設説明会	長浜赤十字病院	美浜原子力発電所	2018/12/1	45
2018013	滋賀県	H30 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師会 (県委託事業)	市立大津市民病院	2019/2/3	14
2018014	滋賀県	H30 年度	緊急被ばく医療関係者の資質向上のための 研修会	原安協 (県委託事業)	済生会滋賀県病院	2019/3/24	26
2018015		H30 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 講師養成講座①基礎研修	原安協	東京都港区	2018/8/7	13
2018016		H30 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 講師養成講座①基礎研修	原安協	東京都港区	2018/9/1	12
2018017		H30 年度	平成30年度鳥取県原子力災害医療研修	原安技センター	鳥取県中部総合事務所講堂	2018/9/29	8
2018018		H30 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 講師養成講座①基礎研修	原安協	東京都港区	2018/9/29	12
2018019		H30 年度	平成30年度青森県 「原子力災害医療に関する基礎研修」	原安協	青森県むつ市	2018/10/9	41
2018020		H30 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 講師養成講座①基礎研修	原安協	東京都港区	2018/10/22	14
2018021		H30 年度	平成30年度京都府原子力災害時医療講習 会—放射線の基礎知識と放射線防護について—	原安協	京都府綾部市	2018/11/12	10
2018022		H30 年度	平成30年度大阪府 「原子力災害医療研修会」	原安協	大阪府大阪市	2018/12/14	51

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2018023		H30 年度	平成 30 年度茨城県 原子力災害時医療研修	原安技センター	茨城県立中央病院	2019/1/30	101
2018024		H30 年度	平成 30 年度 宮城県 原子力災害医療基礎研修	原安技センター	宮城県自治会館	2019/1/30	23
2018025		H30 年度	平成 30 年度滋賀県 「原子力災害対応要員のための基礎研修」	原安協	滋賀県高島市	2019/2/21	94
2018026		H30 年度	平成 30 年度日本赤十字社原子力災害対応 基礎研修会（第 2 ブロック）	日本赤十字社	日赤東京都支部	2018/9/25	72
2018027		H30 年度	平成 30 年度日本赤十字社原子力災害対応 基礎研修会（第 4 ブロック）	日本赤十字社	長浜赤十字病院	2018/11/30～ 12/01	49
2018028	石川県	H30 年度	原子力災害医療研修（避難退域時検査）	石川県	地場産業振興センター	2018/11/4	29
2018029	石川県	H30 年度	原子力災害医療研修（避難退域時検査）	石川県	県立生涯学習センター	2018/10/28	14
2018030	鹿児島県	H30 年度	原子力災害時医療研修 （被ばく傷病者等搬送）	原安協	薩摩川内市消防局	2018/11/7	16
2018031	鹿児島県	H30 年度	原子力災害時医療研修 （被ばく傷病者等搬送）	原安協	鹿児島市消防総合訓練研修センター	2018/11/8	10
2018032	鹿児島県	H30 年度	原子力災害時医療研修 （原子力災害時の医療）	原安協	鹿児島大学病院	2018/11/23	19
2018033	鹿児島県	H30 年度	原子力災害時医療研修 （原子力災害時の医療）	原安協	済生会川内病院	2018/11/24	15
2018034	鹿児島県	H30 年度	被ばく医療研修会（福島県立医科大学）	済生会川内病院	済生会川内病院	2019/1/18	不明
2018035	鹿児島県	H30 年度	原子力災害時医療研修 （避難退域時検査及び簡易除染）	（公財）原子力安全 研究協会	鹿児島県市町村自治会館	2018/1/28	22
2018037	新潟県	H30 年度	災害医療コーディネーター・災害時医療従 事者合同研修	新潟大学医歯学総 合病院	新潟大学医歯学総合病院	2018/12/9	43
2018038	青森県	H30 年度	原子力災害医療研修会 「放射線の基礎」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2018/7/12	26
2018039	青森県	H30 年度	原子力災害医療研修会 「放射線の基礎」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	2018/8/30	26
2018040	青森県	H30 年度	原子力災害医療基礎研修会	青森県立中央病院	ワ・ラッセ（青森市）	2018/11/9	72
2018041	大阪府	H30 年度	原子力災害医療研修会	原安協	大阪府庁	2018/12/14	53
2018042	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県（原安協）	久万高原町立病院	2018/9/5	16

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2018043	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	愛媛県立南宇和病院	2018/9/12	24
2018044	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	愛媛県立新居浜病院	2018/9/14	37
2018045	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	愛媛県立今治病院	2018/9/27	40
2018046	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	西条市立周桑病院	2018/10/4	29
2018047	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	公立学校共済組合 四国中央病院	2018/10/9	21
2018048	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	鬼北町立北宇和病院	2018/10/26	18
2018049	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	市立大洲病院	2018/10/29	38
2018050	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	西予市立西予市民病院	2018/11/6	45
2018051	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	市立宇和島病院	2018/11/22	64
2018052	愛媛県	H30 年度	原子力災害時の医療活動研修 (原子力災害時の搬送)	愛媛県(原安協)	八幡浜地区施設事務組合消防本部	2019/2/18	19
2018053	愛媛県	H30 年度	原子力災害時の医療に関わる研修 講師養成講座	原安協	原安協東京都港区	2018/09/29～ 30	2
2018054	愛媛県	H30 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県	公立学校共済組合四国中央病院	2018/10/9	1
2018055	愛媛県	H30 年度	原子力災害時の医療に関わる研修 講師養成講座	原安協	原安協東京都港区	2018/11/10～ 11	2
2018056	愛媛県	H30 年度	原子力災害対策要員研修	内閣府	松山市総合コミュニティーセンター	2019/1/30	1
2018057	愛媛県	H30 年度	原子力防災基礎研修	愛媛県	松山市アイテム愛媛	2019/2/5	2
2018058	神奈川県	H30 年度	神奈川県初期被ばく医療機関講習会	神奈川県(有限会社自然文化創舎)	横須賀共済病院 外来1号館 講堂	2019/1/9	119
2018059	神奈川県	H30 年度	神奈川県緊急被ばく医療研修会	神奈川県(有限会社自然文化創舎)	崎陽軒本店 6階 1号室	2019/1/10	64
2018060	佐賀県	H30 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修① (避難退域時検査等)	原安協	佐賀県青年会館	2019/1/22	28
2018061	佐賀県	H30 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修② (原子力災害医療協力機関向け)	原安協	佐賀県医療センター好生館	2019/2/17	9
2018062	佐賀県	H30 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修② (原子力災害医療協力機関向け)	原安協	唐津赤十字病院	2019/2/23	15

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2018063	佐賀県	H30 年度	佐賀県原子力災害医療専門研修	原安協	アバンセ（佐賀県）	2019/3/1	21
2018064		H30 年度	平成 30 年度広島大学 放射線診療業務従事者研修	広島大学	広島大学	2019/1/31	239
2019001	石川県	R 1 年度	原子力災害医療研修（避難退域時検査）	石川県	地場産業振興センター	2019/10/19	40
2019002	大阪府	R 1 年度	原子力災害医療研修会	原安協	エル・おおさか	2019/12/19	36
2019003	青森県	R 1 年度	青森県原子力災害医療に関する基礎研修	青森県（原安協）	ウエディングプラザアラスカ （青森市新町）	2019/10/10	44
2019004	青森県	R 1 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修 （安定ヨウ素剤等）	青森県（原安協）	ウエディングプラザアラスカ （青森市新町）	2019/10/11	14
2019005	青森県	R 1 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修 （避難退域時検査・簡易除染）	青森県（原安協）	ウエディングプラザアラスカ （青森市新町）	2019/10/11	23
2019006	青森県	R 1 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修 （医療機関の対応）	青森県（原安協）	八戸市立市民病院（八戸市田 向）	2019/11/2	19
2019007		R 1 年度	原子力災害医療基礎研修 （パイロットコース）	量研	量研	2019/5/7	29
2019008		R 1 年度	令和元年度原子力災害医療研修（富山県）	原安技センター	高岡市役所	2019/9/29	20
2019009		R 1 年度	令和元年度青森県 「原子力災害医療に関する基礎研修」	原安協	青森県青森市	2019/10/10	44
2019010		R 1 年度	令和元年度鳥取県原子力災害医療研修	原安技センター	鳥取県中部総合事務所 講堂	2019/10/19	6
2019011		R 1 年度	令和元年度滋賀県 「原子力災害対応要員のための基礎研修」	原安協	滋賀県長浜市	2019/11/7	92
2019012		R 1 年度	令和元年度鹿児島県 原子力災害時医療基礎研修	原安協	鹿児島県鹿児島市	2019/12/1	15
2019013		R 1 年度	令和元年度大阪府 「原子力災害医療研修会」	原安協	大阪府大阪市	2019/12/19	35
2019014		R 1 年度	令和元年度茨城県 原子力災害時医療基礎研修	原安技センター	水戸医療センター	2020/2/17	123
2019015		R 1 年度	令和元年度日本赤十字社原子力災害対応基 礎研修会（第 3 ブロック）	日本赤十字社	日赤静岡県支部	2019/06/07～ 06/08	43

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2019016		R1年度	令和元年度日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会（第5ブロック）	日本赤十字社	松山赤十字病院	2019/11/28～29	44
2019017		R1年度	令和元年度日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会（第6ブロック）	日本赤十字社	唐津赤十字病院	2020/01/24～25	31
2019018	鹿児島県	R1年度	原子力災害時医療研修（基礎）	原安協	鹿児島大学病院	2019/12//01	14
2019019	鹿児島県	R1年度	原子力災害時医療研修（搬送）	原安協	姶良市消防本部	2019/12/11	27
2019020	鹿児島県	R1年度	原子力災害時医療研修（搬送）	原安協	薩摩川内市消防局	2019/12/12	20
2019021	鹿児島県	R1年度	原子力災害拠点病院のためのモデル BCP 及びリスクコミュニケーションに関するワークショップ	九州大学・鹿児島大学	鹿児島大学病院	2019/12/23	10
2019023	鹿児島県	R1年度	被ばく医療研修会（鹿児島大学病院）	済生会川内病院	済生会川内病院	2020/1/17	45
2019024	鹿児島県	R1年度	原子力災害時医療研修（安定ヨウ素剤）	原安協	川薩保健所	2020/1/21	26
2019025	鹿児島県	R1年度	原子力災害時医療研修（医療）	原安協	鹿児島県立北薩病院	2020/1/22	16
2019026	鹿児島県	R1年度	原子力災害時医療研修（医療）	原安協	鹿児島県市町村自治会館	2020/1/27	21
2019027	鹿児島県	R1年度	原子力災害時医療研修（基礎）	原安協	鹿児島県市町村自治会館	2020/1/28	5
2019028	鹿児島県	R1年度	原子力災害時医療研修（医療）	原安協	鹿児島市立病院	2020/2/10	6
2019029	島根県	R1年度	緊急被ばく医療活動訓練	島根県	県立中央病院、島根大学医学部附属病院	2019/11/10	70
2019030	青森県	R1年度	原子力災害医療研修会「東北電力東通原子力発電所の原子力災害医療対応について」	青森県立中央病院	青森県立中央病院	019/08/28	33
2019031	新潟県	R1年度	WBC 測定研修	県立がんセンター新潟病院	県立がんセンター新潟病院	2019/6/20	5
2019032	新潟県	R1年度	防護服・サーバイメータ取扱研修	県立がんセンター新潟病院	県立がんセンター新潟病院	2020/02/17～21	30
2019033	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	愛媛県立南宇和病院	2019/8/27	23
2019034	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	愛媛県立今治病院	2019/9/26	38
2019035	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	市立大洲病院	2019/10/4	39
2019036	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	西条市立周桑病院	2019/10/7	36

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2019037	愛媛県	R1年度	原子力災害時の医療活動研修(避難退域時検査及び簡易除染、安定ヨウ素剤等)	愛媛県(原安協)	松山市男女共同参画推進センター	2019/10/8	22
2019038	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	西予市立西予市民病院	2019/10/24	38
2019039	愛媛県	R1年度	原子力災害時の医療活動研修(原子力災害時の搬送)	愛媛県(原安協)	松山市保健所・消防合同庁舎	2019/11/5	24
2019040	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	公立学校共済組合四国中央病院	2019/11/14	17
2019041	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	市立宇和島病院	2019/11/20	14
2019042	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	愛媛県立新居浜病院	2019/11/22	40
2019043	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	鬼北町立北宇和病院	2019/11/25	19
2019044	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県(原安協)	久万高原町立病院	2019/11/26	28
2019045	愛媛県	R1年度	愛媛県災害医療コーディネーター研修	愛媛県	愛媛県中予地方局	2019/8/27	2
2019046	愛媛県	R1年度	原子力災害対策要員研修	内閣府	市立八幡浜総合病院	2019/8/21	1
2019047	愛媛県	R1年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県	愛媛県立今治病院	2019/9/26	1
2019048	愛媛県	R1年度	愛媛県原子力災害時の医療活動研修	愛媛県	松山市男女共同参画センター	2019/10/8	1
2019049	福島県	R1年度	令和元年度 フォローアップ研修会	福島医大	福島県立医科大学	2019/10/5	11
2019050	北海道	R1年度	北海道原子力災害医療研修会(安定ヨウ素剤の配布)	北海道	小樽市公会堂	2020/1/15	30
2019051	北海道	R1年度	令和元年度北海道原子力災害医療研修会(避難退域時検査・簡易除染)	北海道	札幌市教育文化会館	2019/12/19	不明
2019052	北海道	R1年度	令和元年度原子力災害医療研修会(医療機関の対応・被ばく傷病者等の搬送)	北海道	岩内協会病院	2020/2/1	30
2019053	滋賀県	R1年度	「原子力災害拠点病院としての本学附属病院の役割」	滋賀医科大学	滋賀医科大学医学部附属病院	2019/8/30	128
2019054	滋賀県	R1年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師会(県委託事業)	市立大津市民病院	2020/2/16	8
2019055	滋賀県	R1年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2019/6/13	55
2019056	滋賀県	R1年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2019/12/11	83
2019057	神奈川県	R1年度	神奈川県原子力災害医療協力機関等講習会	神奈川県(有限会社自然文化創舎)	横須賀市立市民病院 西棟7階講堂	2020/2/10	13

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2019058	神奈川県	R1 年度	神奈川県原子力災害医療研修会	神奈川県（有限会社自然文化創舎）	ヨコハマジャスト1号館 8階 1号室	2020/1/22	54
2019059	佐賀県	R1 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修① （避難退域時検査・安定ヨウ素剤等）	原安協	メートプラザ佐賀	2019/12/24	36
2019060	佐賀県	R1 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修② （原子力災害医療協力機関向け）	原安協	唐津赤十字病院	2020/2/2	11
2019061	佐賀県	R1 年度	佐賀県原子力災害医療基礎研修② （原子力災害医療協力機関向け）	原安協	佐賀県医療センター好生館	2020/2/8	8
2019062		R1 年度	令和元年度広島大学 放射線診療業務従事者研修	広島大学	広島大学	2020/12/10, 2021/1/24,27, 2/12, 13, 20	334
2020001		R2 年度	原子力災害医療基礎研修	量研	Web 開催	2020/12/24	○
2020002	新潟県	R2 年度	WBC 測定研修	県立がんセンター 新潟病院	県立がんセンター新潟病院	2020/11～ 2021/3	30
2020003	新潟県	R2 年度	防護服・サーベイメータ取扱研修	県立がんセンター 新潟病院	県立がんセンター新潟病院	2021/03/02～ 04	30
2020004	青森県	R2 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修 （避難退域時検査・簡易除染）	青森県（原安協）	青森県観光物産館アスパム （青森市安方）	2020/9/30	13
2020005	青森県	R2 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修 （医療機関の対応）	青森県（原安協）	ウエディングプラザアラスカ （青森市新町）	2020/10/10	10
2020006	北海道	R2 年度	令和2年度北海道原子力災害医療研修会 （避難退域時検査・簡易除染）	北海道	札幌市教育文化会館	2020/9/16	20
2020007	北海道	R2 年度	令和2年度北海道原子力災害医療研修会 （医療機関の対応、被ばく傷病者等の搬送）	北海道	岩内地方文化センター	2020/10/16	30
2020008	滋賀県	R2 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2020/9/14	22
2020009	滋賀県	R2 年度	院内原子力災害医療対応基礎研修	長浜赤十字病院	長浜赤十字病院	2021/1/29	42
2020010	滋賀県	R2 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師会 （県委託事業）	市立大津市民病院	2021/2/14	不明
2020011	滋賀県	R2 年度	滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会	滋賀県放射線技師会 （県委託事業）	市立大津市民病院	2021/3/28	不明

通し番号	道府県	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
2020012	新潟県	R2 年度	原子力災害医療研修（基礎）	新潟県	オンライン形式で実施	2021/1/18	86
2020013	青森県	R2 年度	青森県原子力災害医療に関する基礎研修	青森県（原安協）	青森県観光物産館アスパム （青森市安方）	2020/9/29	17
2020014	青森県	R2 年度	青森県原子力災害医療に関する実践研修 （安定ヨウ素剤等）	青森県（原安協）	青森県観光物産館アスパム （青森市安方）	2020/9/30	6
2020015	岐阜県	R2 年度	原子力災害時の医療に係わる研修 （安定ヨウ素剤）（講義・演習）	原安協	ソフトピアジャパン	2021/3/23	7
2020017	石川県	R2 年度	原子力災害医療研修（避難退域時検査）	石川県	WE B 研修	2020/11/14	30
2020018	鹿児島県	R2 年度	原子力災害時医療研修（基礎）	原安協	鹿児島県医師会館	2020/11/4	21
2020019	鹿児島県	R2 年度	原子力災害時医療研修（搬送）	原安協	いちき串木野市消防本部	2020/11/17	12
2020020	鹿児島県	R2 年度	原子力災害時医療研修（搬送）	原安協	風テラスあくね	2020/11/25	20
2020021	鹿児島県	R2 年度	原子力災害時医療研修（医療）	原安協	済生会川内病院	2020/12/19	15
2020022	鹿児島県	R2 年度	原子力災害時医療研修（安定ヨウ素剤）	原安協	川薩保健所	2021/1/8	17
2020023	愛媛県	R2 年度	原子力災害時の医療活動研修（避難退域時 検査及び簡易除染、安定ヨウ素剤等）	愛媛県（原安協）	愛媛県県民文化会館	2020/10/15	16
2020024	愛媛県	R2 年度	原子力災害医療協力機関研修	愛媛県（原安協）	Web 開催	2021/02/15～	333
2020025	愛媛県	R2 年度	令和 2 年度愛媛県 原子力災害時の医療救護活動研修	愛媛県	愛媛県県民文化会館	2020/10/15	1
2020026	神奈川県	R2 年度	神奈川県原子力災害医療研修会	神奈川県・学校法人北里研究所北里 大学病院	Z o o m を使用したオンライン 開催	2021/3/20	53
2020027		R2 年度	福島災害医療セミナー2020 （オンライン・セミナー）	福島県立医科大学	福島県立医科大学	2020/10/10	71
2020028		R2 年度	令和 2 年度広島大学 放射線診療業務従事者研修	広島大学	広島大学	2021/1/25～ 2/26	487
2020029		R2 年度	広島大学病院看護実践教育研修センター研 修「原子力災害に必要な基礎知識」	広島大学	広島大学病院	2020/6/26, 7/1	38

9.2. 専門研修

通し番号	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
201401	H26 年度	原子力災害医療総括担当者コース	放医研	放医研	2015/01/14～15	25
201402	H26 年度	原子力災害医療派遣チームコース	放医研	弘前大学医学部附属病院	2015/02/14～15	27
201403	H26 年度	第 11 回 NIRS 被ばく医療セミナー	放医研	放医研	2014/06/23～25	29
201404	H26 年度	第 12 回 NIRS 被ばく医療セミナー	放医研	放医研	2014/10/16～18	30
201501	H27 年度	原子力災害医療中核人材研修	放医研	放医研	2016/01/13～15	26
201502	H27 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	島根県立中央病院	2016/3/20	16
201503	H27 年度	WBC 研修	放医研	放医研	2016/02/25～26	12
201504	H27 年度	第 13 回 NIRS 被ばく医療セミナー	放医研	放医研	2015/06/17～19	32
201505	H27 年度	第 14 回 NIRS 被ばく医療セミナー	放医研	放医研	2015/10/14～16	25
201601	H28 年度	原子力災害医療中核人材研修	量研	量研	2016/06/22～24	20
201602	H28 年度	原子力災害医療中核人材研修	量研	量研	2016/10/05～07	24
201603	H28 年度	原子力災害医療中核人材研修	量研	量研	2017/01/18～20	26
201604	H28 年度	WBC 研修	量研	量研	2016/12/21～22	19
201605	H28 年度	甲状腺簡易計測研修	量研	量研	2017/2/8	15
201606	H28 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	富山県立中央病院	2016/07/08～09	12
201607	H28 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	長崎大学	済生会川内病院	2016/12/3	20
201608	H28 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	鳥取県立中央病院	2017/03/03～04	9
201609	H28 年度	第 15 回 NIRS 被ばく医療セミナー	量研	量研	2016/12/14～16	23
201701	H29 年度	原子力災害医療中核人材研修	量研	量研	2017/06/21～23	26
201702	H29 年度	原子力災害医療中核人材研修	量研	量研	2017/09/13～15	20
201703	H29 年度	原子力災害医療中核人材研修	広島大学	広島大学	2017/11/29～12/01	26
201704	H29 年度	原子力災害医療中核人材研修	弘前大学	弘前大学	2017/11/08 - 10	20
201705	H29 年度	原子力災害医療中核人材研修	福島医大	福島医大	2017/07/26～28	19
201706	H29 年度	原子力災害医療中核人材研修	長崎大学	長崎大学	2018/01/17 - 19	21
201707	H29 年度	WBC 研修	量研	量研	2017/12/21～22	20
201708	H29 年度	甲状腺簡易計測研修	量研	量研	2017/10/11	20
201709	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	松山赤十字病院	2017/6/3	17

通し番号	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
201710	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	愛媛大学医学部附属病院	2017/6/10	24
201711	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	愛媛県立中央病院	2017/7/15	25
201712	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	市立八幡浜総合病院	2017/7/29	25
201713	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	石川県立中央病院	2017/9/30	10
201714	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	長浜赤十字病院	2017/12/7	23
201715	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	京都医療センター	2017/12/9	11
201716	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	金沢医療センター	2017/12/16	9
201717	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	京都大学医学部附属病院	2018/1/15	14
201718	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	大津赤十字病院	2018/2/26	12
201719	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	金沢大学附属病院	2018/3/3	8
201720	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	京都府立医科大学附属病院	2018/3/24	27
201721	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	弘前大学	青森県立中央病院	2017/7/22	24
201722	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	弘前大学	石巻赤十字病院	2018/3/17	35
201723	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	福島医大	水戸医療センター	2017/8/7	19
201724	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	福島医大	茨城県立中央病院	2017/10/21	25
201725	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	福島医大	筑波大学附属病院	2017/11/4	15
201726	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	長崎大学	唐津赤十字病院	2017/6/9	10
201727	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	長崎大学	九州大学病院	2017/8/12	11
201728	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	長崎大学	佐世保市総合医療センター	2017/8/18	8
201729	H29 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	長崎大学	鹿児島大学病院	2017/12/17	10
201730	H29 年度	第 16 回 NIRS 被ばく医療セミナー	量研	量研	2017/12/13~15	24
201801	H30 年度	原子力災害医療中核人材研修	量研	量研	2018/06/13~15	24
201802	H30 年度	原子力災害医療中核人材研修	量研	量研	2018/09/19~21	22
201803	H30 年度	原子力災害医療中核人材研修	広島大学	広島大学	2018/12/10~12	38
201804	H30 年度	原子力災害医療中核人材研修	弘前大学	弘前大学	2018/11/14 - 16	20
201805	H30 年度	原子力災害医療中核人材研修	福島医大	福島医大	2018/08/01~3	29
201806	H30 年度	原子力災害医療中核人材研修	長崎大学	長崎大学	2019/01/21 - 23	23
201807	H30 年度	WBC 研修	量研	量研	2018/12/05~06	11
201808	H30 年度	甲状腺簡易計測研修	量研	量研	2018/10/26	19

通し番号	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
201809	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	島根大学医学部附属病院	2018/7/21	14
201810	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	富山大学附属病院	2018/11/22~23	12
201811	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	愛媛大学医学部附属病院	2019/2/16	28
201812	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	市立八幡浜総合病院	2019/2/23	15
201813	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	弘前大学	仙台医療センター	2018/9/22	14
201814	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	弘前大学	青森県立中央病院	2018/9/28	8
201815	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	弘前大学	北海道大学病院	2018/10/2	5
201816	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	福島医大	会津中央病院	2018/10/16	15
201817	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	福島医大	福島県立医大	2018/10/29	13
201818	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	福島医大	静岡県立総合病院	2019/2/18	12
201819	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	長崎大学	長崎医療センター	2018/10/31	9
201820	H30 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	長崎大学	佐賀県医療センター好生館	2019/1/12	13
201821	H30 年度	第 17 回 NIRS 被ばく医療セミナー	量研機構	量研	2018/12/12~14	24
201901	R1 年度	原子力災害医療中核人材研修 (パイロットコース)	量研	量研	2019/05/08~10	20
201902	R1 年度	原子力災害医療派遣チーム研修 (パイロットコース)	量研	量研	2019/5/11	23
201903	R1 年度	原子力災害医療中核人材研修	量研	量研	2019/07/03~05	18
201904	R1 年度	原子力災害医療中核人材研修	広島大学	広島大学	2019/12/09~11	32
201905	R1 年度	原子力災害医療中核人材研修	弘前大学	弘前大学	2019/11/20~22	27
201906	R1 年度	原子力災害医療中核人材研修	福島医大	福島医大	2019/07/31~08/02	37
201907	R1 年度	原子力災害医療中核人材研修	長崎大学	長崎大学	2019/10/28~30	24
201908	R1 年度	WBC 研修	量研	量研	2019/12/03~04	22
201909	R1 年度	甲状腺簡易計測研修	量研	量研	2019/10/21	22
201910	R1 年度	高度専門被ばく医療研修	量研	量研	2020/2/12	22
201911	R1 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	福井県立病院	2020/2/6	33
201912	R1 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	愛媛大学医学部附属病院	2020/2/15	24
201913	R1 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	弘前大学	札幌医科大学	2019/7/21	14
201914	R1 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	弘前大学	東北大学	2019/9/22	14
201915	R1 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	弘前大学	八戸市立市民病院	2019/10/20	9
201916	R1 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	福島医大	新潟大学医学部総合病院	2020/2/8	20

通し番号	開催年度	研修名称	実施機関	実施場所	日程	受講者数
201917	R1 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	福島医大	福島赤十字病院	2020/2/24	14
201918	R1 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	長崎大学	佐賀県医療センター好生館	2019/9/14	12
201919	R1 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	長崎大学	鹿児島大学病院	2020/1/11	13
201920	R1 年度	第 18 回 NIRS 被ばく医療セミナー	量研機構	量研	2019/12/11~12/13	20
202001	R2 年度	原子力災害医療中核人材研修	量研	量研	2020/09/22~24	9
202002	R2 年度	原子力災害医療中核人材研修	広島大学	広島大学	2021/03/01~03	12
202003	R2 年度	原子力災害医療中核人材研修	弘前大学	弘前大学	2021/02/17~19	8
202004	R2 年度	原子力災害医療中核人材研修	福島医大	福島医大	2020/10/07~09	14
202005	R2 年度	原子力災害医療中核人材研修	長崎大学	長崎大学	2020/11/04~06	12
202006	R2 年度	WBC 研修	量研	量研	2020/12/07~08	6
202007	R2 年度	甲状腺簡易計測研修	量研	量研	2020/10/26	7
202008	R2 年度	高度専門被ばく医療研修	量研	量研 (Web)	2021/2/15	25
202009	R2 年度	体外計測研修	量研	量研 (Web)	2021/2/17	2
202010	R2 年度	バイオアッセイ研修	量研	量研 (Web)	2021/2/16	2
202011	R2 年度	染色体分析研修	量研	量研 (Web)	2021/2/18	8
202012	R2 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	量研	量研	2020/9/25	6
202013	R2 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	岡山医療センター	2020/10/6	21
202014	R2 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	大阪医療センター	2020/10/13	14
202015	R2 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	福井赤十字病院	2020/10/31	21
202016	R2 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	滋賀医科大学医学部附属病院	2020/12/6	20
202017	R2 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	岐阜大学医学部附属病院	2021/3/20	29
202018	R2 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	福井大学医学部附属病院	2021/3/21	16
202019	R2 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	広島大学	大阪医療センター	2020/10/19	14
202021	R2 年度	原子力災害医療派遣チーム研修	福島医大	福島医大	2020/11/23	6